子育て仲間、あつまれ！



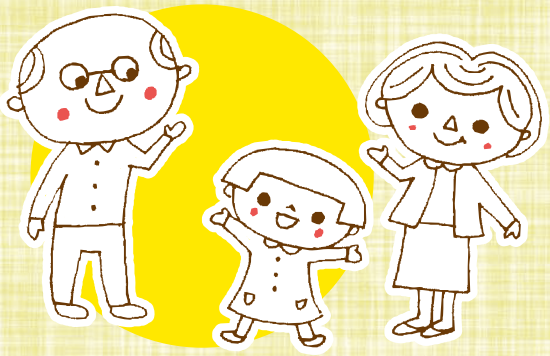


0～6歳の育ちを応援する

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの

あそびのレシピ





もくじ

・からだを動かす遊び
・想像する遊び
・創作する遊び
・手をつかった遊び
・コミュニケーションを用いる遊び

＋

遊びの会の開き方

子どもの発達に着目した
遊びを紹介！

Save the Children
JAPAN

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは乳幼児の子育てを応援しています

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンより、０歳～６歳の子どものための「あそびのレシピ」をお届けします。

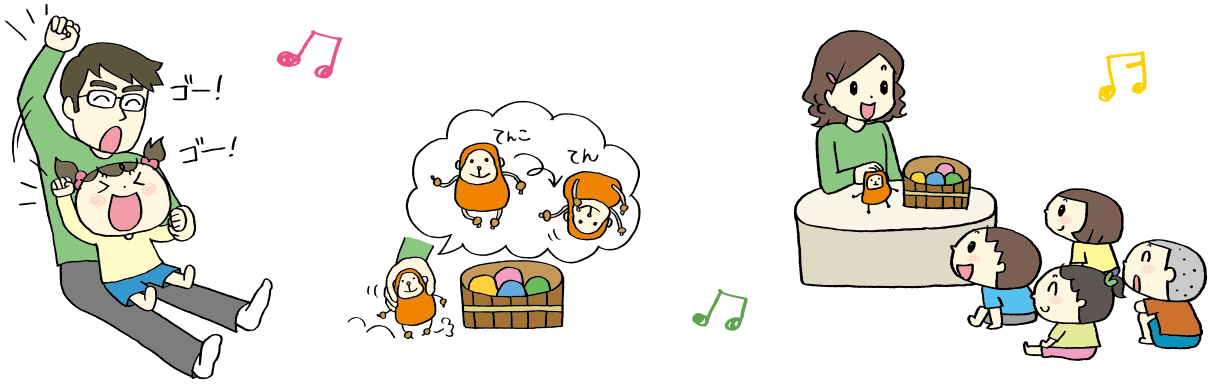
本書は、2012 年に宮城県石巻市でスタートさせた東日本大震災復興支援の一環として実施した“ 地域の遊び場づくり ” 事業でつちかった経験をもとにまとめたものです。子どもたちの成長・発達を促す遊びの数々をご紹介するとともに、子育てに関わる養育者のみなさんが、自分たちで遊びの会を開きたい、子育てグループを立ち上げたいと思われた時に役立てていただけるような内容も盛り込んでいます。

★５つの遊びの章

本書では、遊びを５つに分けて紹介しています（p.6 参照）。各章それぞれ、その分野の遊びを得意とされている団体に提供していただきました。子どもの発達、興味、関心に合わせ、バランスよく取り入れられるように、集団で楽しめる遊びはもちろん、家庭で子どもとできる遊びもたくさん紹介しています。また、それぞれのページには、遊びの工夫やヒントも盛り込んでいます。

★遊びの会の開き方

自分たちで遊びの会を開きたい、というみなさんへ、最終章およびコラムなどで、「はじめに仲間と決めること」「安全に遊べるように気をつけること」「遊びの専門家を呼ぶには」など、運営面で役立つ情報をご紹介しました。また〝登録用紙〟〝出欠表〟など、作成すると便利な用紙の様式も載せていますので、参考にしてください。









★遊びのプログラム

遊びの会を開く時は、子どもの年齢や時間に合わせてプログラムを立てるとよいでしょう。「今日は絵画などの創作遊び」「次回は絵本の読み聞かせ」というようにひとつのテーマで統一してもいいし、「運動遊びのあと絵本を読んで、最後に遊具で遊ぶ…」など１回の活動でいろいろな遊びを盛り込むのも楽しいです。

なお、文章中、育児に携わる方々を「保護者」ではなく「養育者」という言葉で表しています。それは、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんなどの家族の枠を越え、子育てを応援したい、子どもの遊び場を大切にしたいという地域の方々にもこの本を手にしてもらいたいと考えるからです。

私たちは、この「あそびのレシピ」を手に、養育者のみなさんが、地域の仲間と一緒に遊び、交流することで、子育てを楽しみ、充実した毎日を過ごせれば、と考えています。さらには、この「あそびのレシピ」を越えて、みなさん自身のレシピを増やし、地域の養育者の方々に広めていくことで、もっと多くの出会いやつながりができることを願っています。

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
東日本大震災復興支援事業部
地域の遊び場づくり事業チーム　一同





もくじ

Part 1 からだを動かす遊び

こぶたちゃんの小さなお鼻【ふれ合い遊び】 8
バスにのって【ふれ合い遊び】 10
まねっこ動物園【まねっこ遊び】 12
大型スーパーへ行こう【運動遊び】 14
いちにのくるりんぱ！【運動遊び】 16
くすくすりらっくす【クールダウン】 17

Part 2 想像する遊び

ハンカチたたみの歌【イメージ遊び】 20
『ころころパンダ』『ゆらゆらパンダ』【読み聞かせ】 22
『もりのおふろ』【読み聞かせ】 23
さるとおふろ【人形遊び】 24
にぎりぱっちり【イメージ遊び】 26

Part 3 創作する遊び

つるつるすべすべ色遊び【絵画遊び】 30
ふしぎはじき絵【絵画遊び】 32

Part 4 手をつかった遊び

積み木 36
形合わせ 36
ビーズ 37
ブロック 37
パズル 38
布絵本 38



Part 5 コミュニケーションを用いる遊び

エネルギーチェック【自己紹介・導入】——42
楽器遊び【手づくり楽器遊び】——43
ミラーリング【まねっこ遊び】——44
絵本で遊ぼう【絵本表現遊び】——46
おふねをこいで【ふれ合い遊び】——48

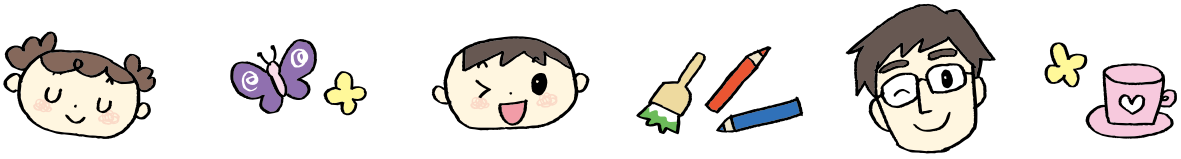
★ 仲間を集めて遊びの会を開こう！

はじめに仲間と決めること——52
仲間を募って活動を広めましょう——53
活動の流れを時間割で考えましょう——54
安全に遊べるように気をつけること——56
遊びの専門家を呼ぶには——57
備品リスト——58
〝登録用紙〟——59
〝活動記録〟——60
〝出欠表〟——61

コラム

どんぐりころころの おすすめ絵本リスト——27
地域のサポート機関を活用してみましょう——39

■セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの
“地域の遊び場づくり”事業——62



発達にあった遊びをとり入れましょう！

セーブ・ザ・チルドレンでは、子どもの発達をふまえて、日常の中で様々な遊びにバランスよくふれることが重要と考え、遊びを大きく５つに分類しています。

1. からだを動かす遊び
2. 想像する遊び
3. 創作する遊び
4. 手をつかった遊び
5. コミュニケーションを用いる遊び

それぞれの遊びについては、Part 1 からはじまる５つの章で詳しく紹介していきます。

発達※とは、子どもが徐々に身体的、認知的、情緒的、社会的な能力の獲得する変化のプロセス（過程）を示します。発達は、生まれながらの生物学的要因に加え、環境的要因によっても影響されます。その中で、日常的な遊びは、子どもの興味・関心に働きかけ、子どもの発達にとって非常に重要な役割を果たします。子どもは遊びを通し、成長・発達し、生涯にわたって必要な以下の能力を確かなものとします。

- **意思決定と問題解決**
- **自己信頼と自信**
- **自立**
- **創造力と想像力**
- **回復力**
- **変化への対処**
- **感情表現能力**
- **コミュニケーションと社会的スキル**
- **所属意識**
- **社会的ルールへの理解**
- **交友関係**
- **共有感（共感）**
- **忍耐**
- **チームワーク（他児や他者との交流）**

※ The Common Approach to Sponsorship-funded Programming, Early Childhood Care and Development (ECCD) Module, Revised November 2010

ひとことmemo **乳幼児期はひとりで寝ていることしかできなかった子どもが、歩き、登り、跳んで、走れるようになる……目を見張る身体的発達を成し遂げる時期です。【SCJ】（SCJ：Save the Children Japan の略）**

握る、噛む、投げる、
ジャンプするなど、様々な
動作をすることで、成長著しい
乳幼児期の身体的発達が
促されます。
脳の発達にも効果的。

器用にからだを動かし
スムーズな動作を身につける
そして筋肉を鍛えるためには
からだをつかって思いきり
遊ぶことが一番！

Part 1

からだを動かす遊び

遊びの提供
ピンポンパン☆（ほし）のみなさん

月齢が低い子ほど
養育者とのやりとりの中から
新しいことや言葉を学ぶため、
話しかけながらやって見せたり
一緒に遊ぶ機会を
大切にしましょう。

ボールを蹴る、字を書く
といった何気ない動作こそが
運動の基本。
様々なからだの使い方をくり返し
楽しく覚えていくためにも
“からだを動かす遊び”は
有効です。

こぶたちゃんの小さなお鼻

時間：約 3 分
年齢：0〜5 歳位

こぶたちゃん（子ども）の鼻、手、ほっぺ、おしり…と、順番にやさしくふれていきましょう。軽やかなリズムにのって自然とからだを動かすことができます。

♥養育者と子どもは近い距離で向き合って座る。

①こぶたちゃんの小さなお鼻、ピンポン（× 3回）
かわいい、お鼻だね、ピンポン



「ピンポン」で養育者は子どもの鼻を軽く突く

②こぶたちゃんの小さなおてて、タッチ（× 3）
かわいい、おててだね、タッチ



「タッチ」で養育者と子どもが手を合わせる

③こぶたちゃんの小さなほっぺ、スリスリ（× 3）
かわいい、ほっぺだね、スリスリ



「スリスリ」で養育者と子どもが頬をすり合わせる

④こぶたちゃんの小さなおしり、トントン（× 3）
かわいい、おしりだね、トントン



「トントン」で子どものおしりを優しく叩いたり、おしりを突き合わせたりする

家でやる時は

ひざの上に座っている時や隣合わせの時など、くつろいでいる時に、曲がなくても、鼻をピンポン、ほっぺスリスリ…と、ふれ合うだけで楽しめます。

ひとことmemo ドキドキ、ワクワクという気持ちが出てきた時に、からだは自然に動きます。【ピンポンパン☆】

発達の視点 遊びを通してふれ合いを楽しむと、からだも自然と動かすことができるようになります。

⑤こぶたちゃん大好き大好き、ギュッギュッ（× 3）
かわいい、こぶたちゃん、大好き
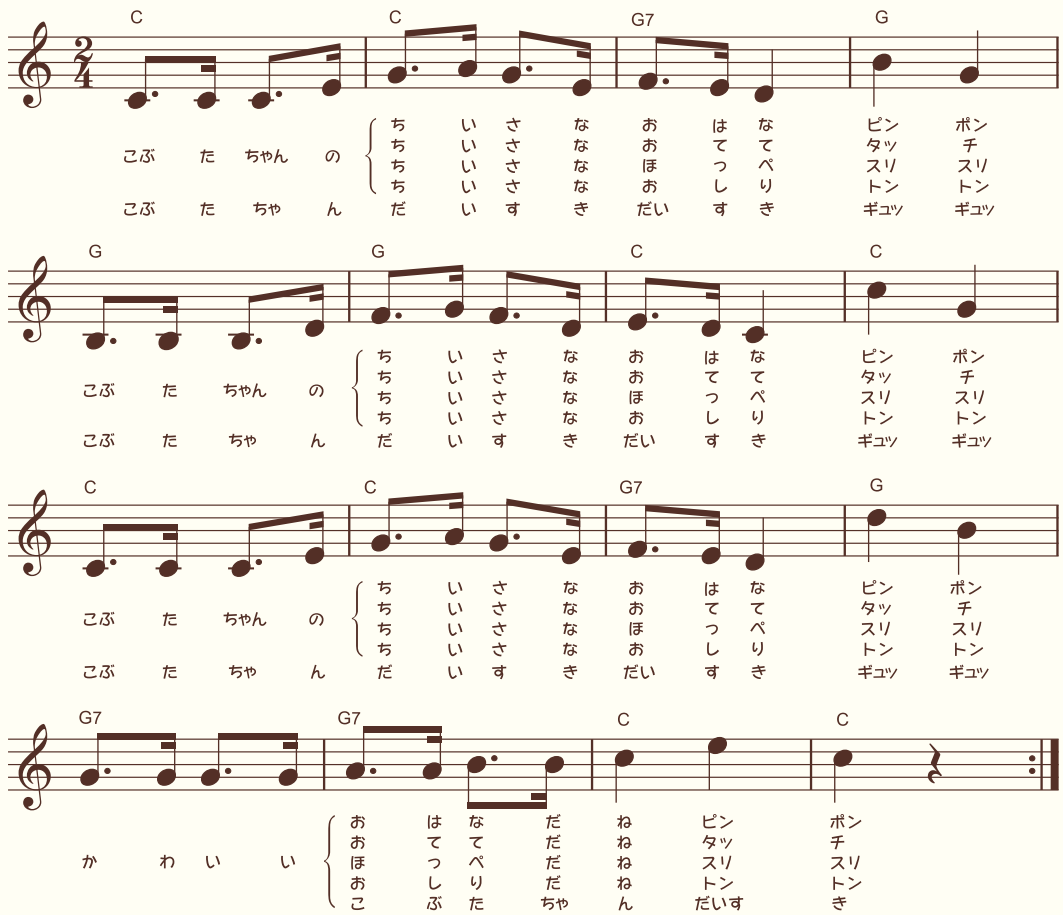


「ギュッギュッ」と、最後の「大好き」のところで養育者と子どもが抱き合う

楽しむコツ

「ピンポン」「タッチ」「スリスリ」「トントン」「ギュッギュッ」の言葉と一緒に、大げさにふれ合いを楽しんでください。

こぶたちゃんの小さなお鼻

♩=120　作詞・作曲／菅野理枝



ひとことmemo うちの子はピンポンパン☆さんの踊りが大好きで、家でもまねしていますよ。【養育者】

バスにのって

時間：約３分
年齢：0〜5 歳位

バスごっこをしましょう。曲に合わせてカーブしたり、上ったり、
止まったり…からだのバランスを楽しく鍛えることができます。

①隣の人とぶつからない間隔で輪をつくり、養育者は足をのばして床に座る。
②ひざの上に子どもを乗せ、子どもの両手をハンドルに見立てて握る。
③歌詞の通りにからだを動かして遊ぶ。

さぁみなさま、
バスに乗って
出発ですよ〜！

【１番】 バスにのって　ゆられてる　　ゴー！　ゴー！　（２回くり返し）



子どもの両手を握り、からだをゆらす



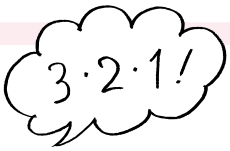
こぶしを元気に突き上げる

１番から９番まで最初の動きは同じ。※印で歌詞が
変わるので、歌詞に合わせてからだを動かします。

そろそろ　※みぎに　まがります



両手をしっかり持って、歌詞を聞いて





カウントしたら、からだを右に傾ける

準備物
★ CD「たにぞうのみんなつながれ！うたあそび」日本コロムビア 税込 1,500 円
★ CD デッキ

発達の視点
子どもの年齢や体力に合わせて養育者が動かします（やさしく・激しくなど）。
「３・２・１」の合図は子どもの意識の準備になり、期待を持てるようになります。

【２番】左に曲がります（からだを左に傾ける）
【３番】デコボコ道です（足をゆらし、でこぼこ道を表す）
【４番】前からオートバイ（オートバイをよけるようにする）
【５番】右に急カーブ（からだを急に右に傾ける）
【６番】左に急カーブ（からだを急に左に傾ける）
【７番】坂を上ります（からだを後ろに倒し、上り坂を表す）
【８番】坂を下ります（からだを前に倒し、下り坂を表す）
【９番】止まります　キイーッ（ギュッと抱いてブレーキをかける）
到着！

家でやる時は
ケガのないように注意し、曲に合わせたり、アカペラで歌ったりして楽しく遊びましょう。

楽しむコツ
本当にバスに乗っているような気持ちにさせましょう。たとえばp.12の動物園の遊びの前に、「バスに乗って動物園に行こうか」などの言葉をかけて、つなげて遊ぶのもいいでしょう。
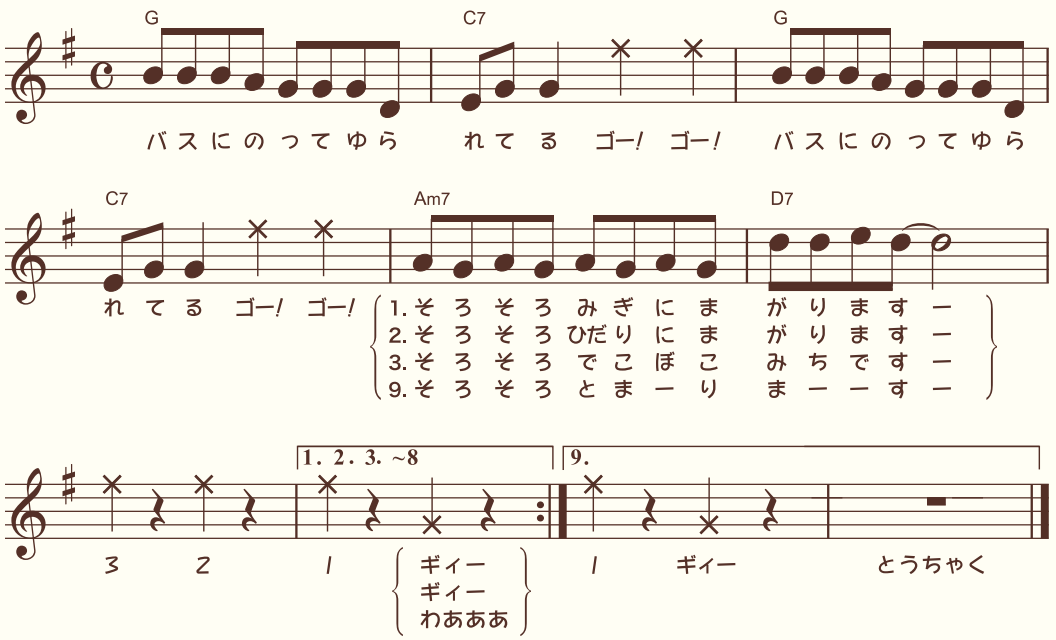


© 2005 by Japan Broadcast Publishing Co.,Ltd.

バスにのって

♩=138　♫=♫³♪

作詞・作曲／谷口國博



ひとことmemo 集まった子どもの年齢に開きがある場合は、小さい子のレベルに合わせて行うようにしています。【ピンポンパン☆】

まねっこ動物園

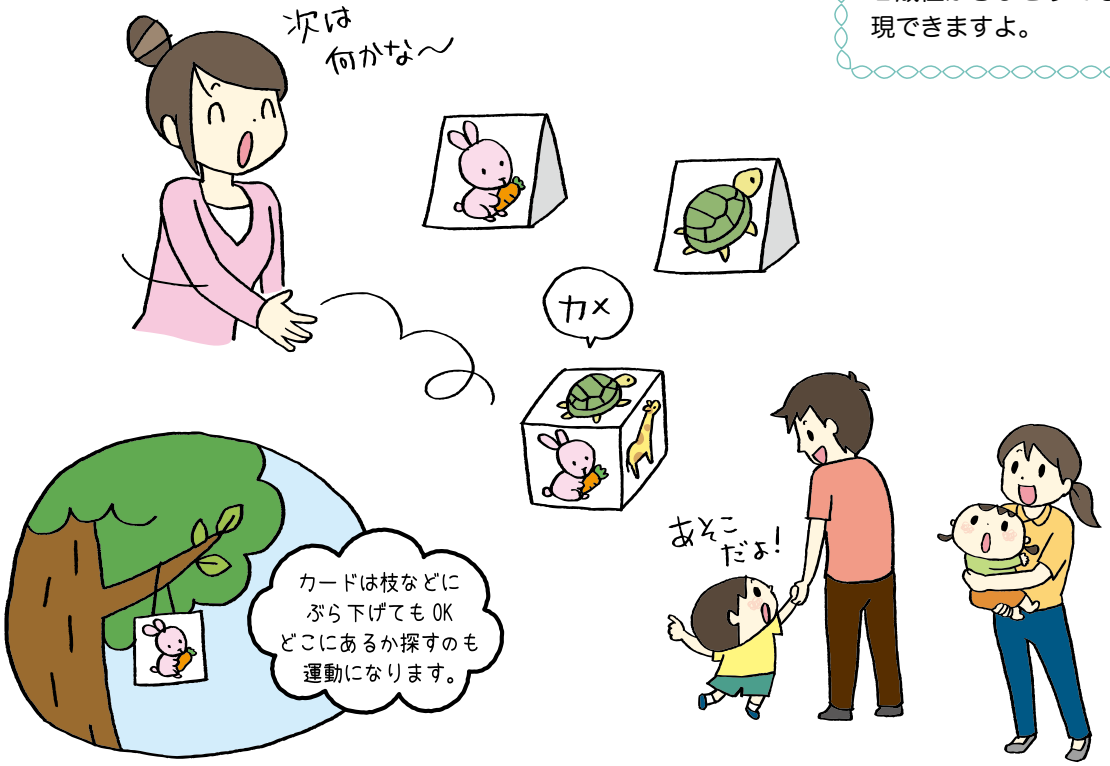
時間：約 10 分
年齢：0〜5 歳位

動物の絵を見て、養育者が動きを表現。それを子どもがまねします。養育者と子どもがふれ合いながら楽しんでからだを動かすことができる遊びです。大勢でするとより楽しめます。

楽しむコツ

乳児と遊ぶ時は、抱っこしたり、からだを動かしたりしてあげましょう。２歳位からひとりでも表現できますよ。

①動物の絵カードを適当な間隔で床に設置する。
②動物サイコロを振り、出た絵と同じ絵カードのところへ移動する。
③その動物のまねをする。



動物と表現の例



ひとこと memo 遊びからはずれてしまう子がいたら、養育者を遊びに誘いましょう。そうすれば「ぼくも（私も）」と、自分から参加してくれますよ。【ピンポンパン☆】

準備物 ★動物カード　★動物サイコロ

発達の視点 這う・跳ぶ・片足立ちなどで様々な筋肉を刺激することができ、子どもの発達に合わせて無理なくからだを動かせるようになります。

動物カードとサイコロの作り方



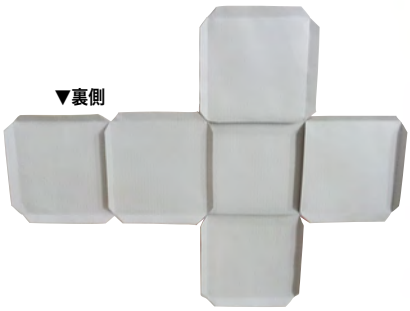
動物カードは大きめの三角スタンド式にし、立てられるようにします。

▼表側



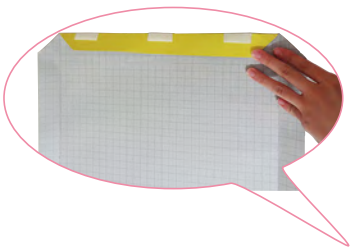
カードとサイコロの絵柄は同じにしましょう。

▼裏側





サイコロは牛乳パックをつかえば、かんたんにつくれます。大きくしたい時は、パックをつなげてつくりましょう。





工作用紙をつかい、のりしろ部分にマジックテープをつけて組み立て式にすると、持ち運びに便利です（テープが強力すぎると壊れやすくなるので注意！）。

コアラ



子どもを抱っこ、またはおんぶする

サル



両手を交互に動かす

ウサギ



ジャンプする

楽しむコツ

- サイコロを子どもが振ると、同じ面ばかり出てしまうことがあるので、養育者が振るようにします。サイコロでなく、袋などに入れ、カードを引くようにしてもいいですよ（引いたカードは袋に戻しません）。
- 遊びに集中できるよう、BGM などはかけないほうがいいでしょう。

ひとことmemo 寒い時など家でばかり遊びがちですが、みんなで遊ぶ機会があると子どもはたくさん動き回れるし、私たちにもよい運動になります。【養育者】

大型スーパーへ行こう

時間：約 6 分
年齢：0〜5 歳位

エレベーターに乗って、いろいろな売り場を探検！ リズムに合わせ、楽しくからだのバランスを鍛えることができますよ。

♥隣の人とぶつからないように大きな円をつくり、養育者と子どものペアで手をつなぐ。

★決まった動き



手をつないで足踏みしながら歌う



「チーン！」と言いながら養育者は両手を子どもの顔の前でエレベーターの扉のように開閉させる



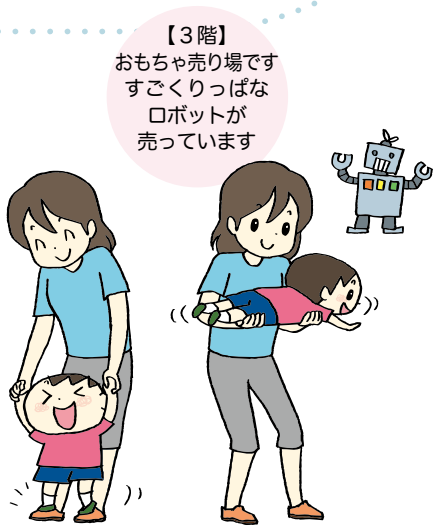
手をつないで前後にゆらす



子どものわきに手を入れて持ち上げ、左右にゆらす



子どもの両手を持って持ち上げる



子どもは養育者の足の上に乗り、手をつなぐ。養育者はそのまま少し歩いてから、子どもを持ち上げて左右に回す

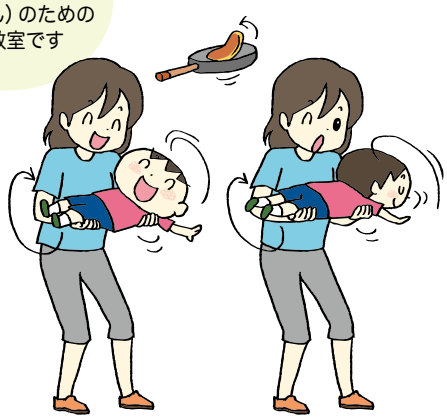
ひとこと memo 体力をつかうから大変ですが、楽しいです！【養育者】

準備物 ★CD 付きムック『田村忠夫のじゃれっこあそび 心も体もピッタンコ！』
（教育技術 MOOK―幼児と保育）小学館　税込 2,310 円　★CD デッキ

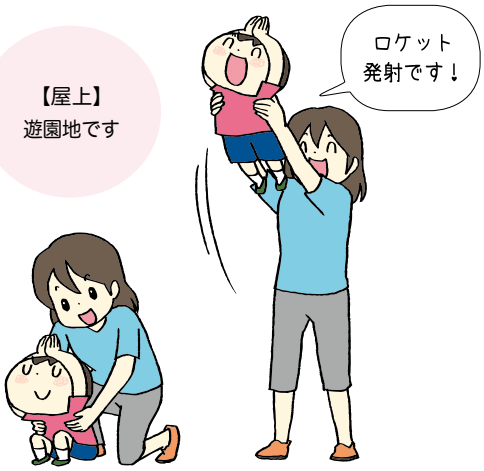
発達の視点 歩く・バランスをとる・からだをのばすなど、曲に合わせて遊ぶことにより、楽しみながら全身運動をすることができます。

【4階】
カルチャーセンターです
きょうはお父さん
（お母さん）のための
料理教室です

子どもを持ち上げて少し放り上げ、クルッと反転させる（持ち上げるだけでも、ゆらすだけでも OK）。



【屋上】
遊園地です
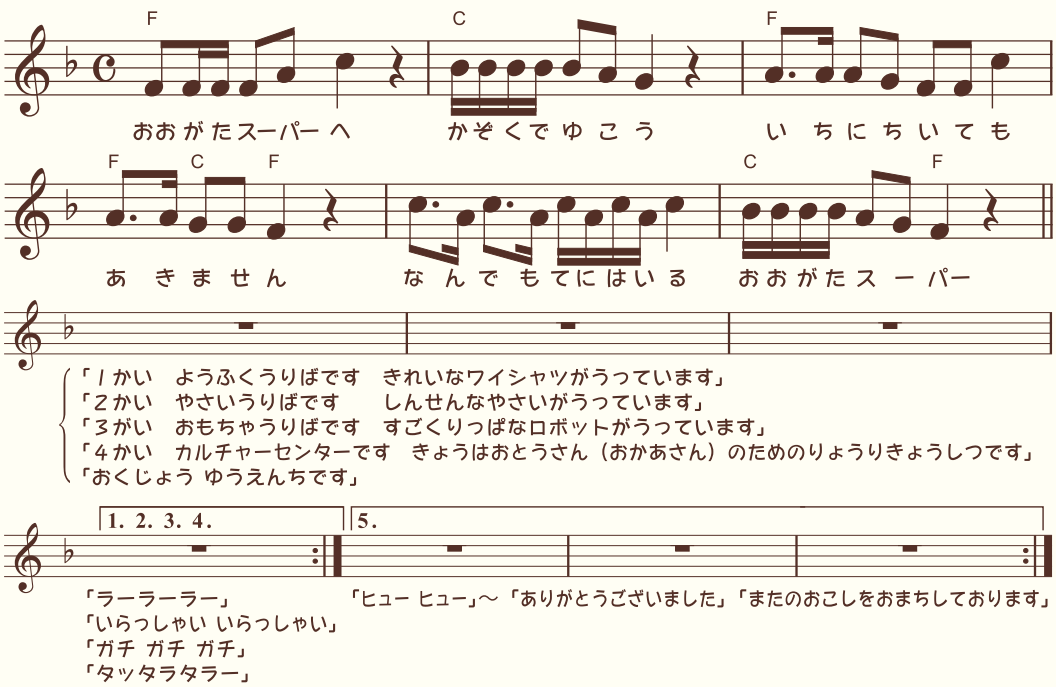


わきを持ち、上に投げ上げる。子どももタイミングを合わせてジャンプすると高く上がる

楽しむコツ

投げ上げたり、回転させる時は、子どもの年齢と、自分の体力（?!）を考え、無理をしないこと。持ち上げたり、ゆらしたりするだけでも十分楽しめます。

大型スーパーへ行こう

作詞・作曲／田村忠夫



ひとことmemo 「大人が楽しんでいないと子どもも楽しめませんよ～」と、いつも声をかけています。【ピンポンパン☆】

いちにのくるりんぱ！

★セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン提供の遊び❶

時間：約 10 分
年齢：3〜5 歳位

しっかり手を握り合って「くるりんぱ！」…子どもとの絆が深まります。上肢（腕と手）・体幹（胴体）の筋肉の向上を促しつつ、普段の生活では経験が少ない前庭（回転）感覚の楽しさ・スリルを体験！

発達の視点

視覚・聴覚・触覚・体性感覚 (筋・腱が感じる感覚) および前庭感覚 (スピードや回転、ゆれ) は統合されて発達し、行動面のコントロールには欠かせないもの。遊びの中で楽しく経験することができます。

楽しむコツ

はじめのうちは養育者がしっかり引き上げるなどしてサポートしましょう。失敗をくり返さないこと・恐怖心をなくすことが大切です。

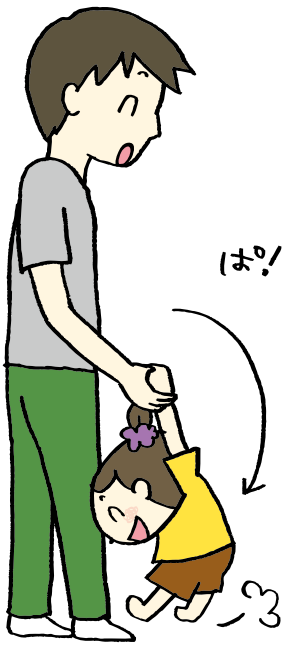
①向かい合って立ち、手を取り合う。



②子どもは養育者の足からお腹までよじ上り



③くるんと１回転する。



④着地！

楽しむコツ

何度かチャレンジする中でコツをつかむようになります。できるようになったら、逆回りや連続回りなどのステップアップにも挑戦！

ひとこと memo〈会に参加して〉…子どもが何に興味があるか知ることができ、遊びを通して子どもの個性が見えてきた。【養育者】

くすくすリらっくす

★セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン提供の遊び②

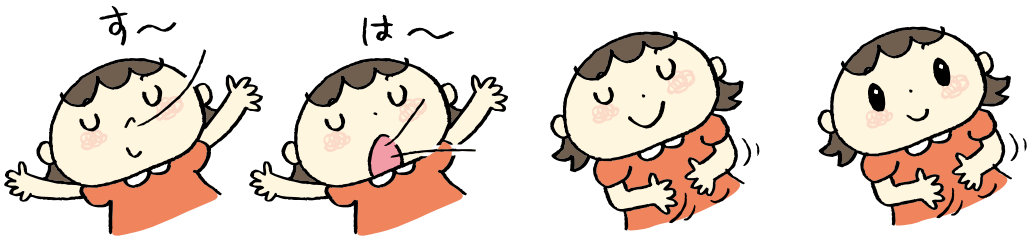
時間：約 5 分　年齢：1〜5 歳位

たくさんからだを動かした後にピッタリ。心とからだをリラックスさせるために、外部の音や光が遮断できて、できるだけゆったり寝転べるスペースで行うのがベストです。

発達の視点 プログラムの「終わり」への導入と心身のリラックス。

♥養育者のひとりがリーダーになり、ゆっくり、やさしく、小さな声で声かけをしていきます。





④お鼻からいっぱい
空気をすって〜

⑤お口から
ゆっくりはいて〜

⑥お腹を
ゆっくりさすりましょう

⑦ゆっくり目をあけて



⑧はい、
起き上がって！

楽しむコツ

2〜3歳は言葉の理解も日々進み、からだのコントロールも上手にできるようになるので、お手本を見なくても言葉だけで理解できます。「おなかを大きくふくらまして」とか「手と足をいっぱい横に広げて」というように、子どものわかりやすい言葉で指示を出すのがポイントです。

ひとこと memo 交流の場に慣れていないような養育者がいらしたら、「お子さん元気に動きますね」など、できるだけ声かけをします。また「○○ちゃんのお母さん」でなく「○○さん」と本人の名前を呼ぶようにしています。【ピンポンパン☆】

からだを動かす遊び　ピンポンパン☆(ほし)より

今、子どもたちの体力が低下していると騒がれています。

子どもの体力の現状（基本的な動作）ということで山梨大学教育人間科学部の中村和彦氏のお話によると、現代の５歳（年長）児は約 30 年前の３歳（年少）児と同じレベル。また現代の３年生～５年生は約 30 年前の５歳（年長）児と同じレベルということでした。活動的な子どもは大丈夫かというと、単一スポーツしかしていない子どもと複数の運動遊びやスポーツをしている子どもとの間には、基本動作習得の格差が出てきています。

また、「日本の子どもが感じる親子の心の絆」ということで、①アメリカ ②中国 ③韓国 ④日本の４か国の中学生、高校生 6,000 名の国際比較で、子どもたちが最も絆が希薄であると感じている国は残念ながら④の日本です。

子どもは自らまわりの環境に働きかけ、いろいろな能力を身につけていきます。そして安心できる身近な人や自然の環境の中で身体的、情緒的、知的発達や社会性が発達していきます。個人差はあるものの、共通した発達段階にふさわしい生活や活動を十分に経験することが重要です。

子ども自身が興味・関心を抱きながら楽しく運動するには、子どもがその運動（遊び）に夢中になること、子どもがその運動（遊び）にのめりこむこと、「もっとやりたい」「またやりたい」「今度こそ」「そうか・なるほど」がキーポイントだと思います。

本書でご紹介した遊びを参考に、大人も子どもも十分に楽しみながら、からだを動かしてくださることを期待しています。



SENDAI NPO 子育て応援隊ピンポンパン☆(ほし)は…

孤立しがちな子育て環境の中で、遊びを通じて親子のふれ合いを深めたり、仲間づくりの手助けを行いたいと、平成 16 年に発足。保育士、レクリエーション・インストラクターでつくる子育て応援隊です。みやぎ生協の委託を受け、親子イベントの開催など、子育て支援の活動をしています。

【問い合わせ先】 Tel.070-5621-0972　　pinponpanhosi@willcom.com

絵本やお話、
音楽や劇などに出会うことで
子どもは登場人物の喜怒哀楽を
疑似体験できるようになります。また
ごっこ遊びなどで、いろいろな役割を
演じる体験から、日々の経験をより深く
理解するようになります。
くり返し楽しむことも大切。次に起こることを
想像する力が育まれます。

想像力が発達することで
2～3歳頃に
見えないものを怖がる時期がありますが
それは自分の周囲への理解が
深まっている証拠。
「大丈夫だよ」と安心させて
見守ることが大切です。

Part 2

想像する遊び

遊びの提供
どんぐりころころの みなさん

自分が尊重された経験を基に
他者の気持ちを想像し、
尊重することを学びます。子どもの気持ちを
丁寧に代弁しながら遊びましょう。
気持ちを大切にしてもらうと
子どもも自分を大切に思えるように
なるはずです。

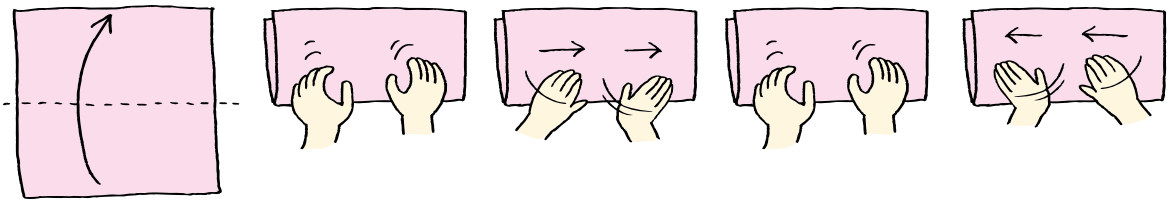
ハンカチたたみの歌

時間：約３分
年齢：1〜5 歳位

歌を歌いながらハンカチや布を１回、２回…とたたみ、いろいろな楽器に見立て、想像力を高めます。布は子どもにとって、夢のふくらむ楽しいおもちゃです。

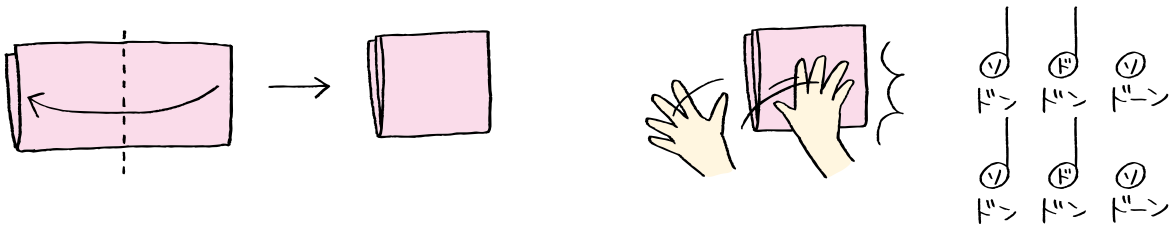
♥人数が多い場合は、養育者からひとり、リーダーを決め、その人を中心に広がって座る。

①ハンカチをたたんで
ピアノをひきましょう　ドレミファソ　ポロン　ソファミレド　ポロン



歌いながらハンカチを二つに折る　ピアノを弾くまね（もちろん適当で OK）　左から右になでるように　ピアノを弾くまね　右から左になでるように

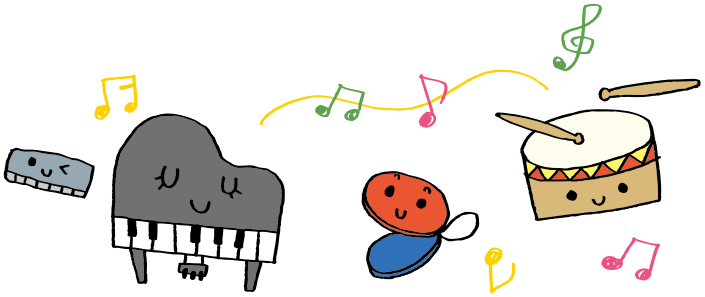
②ハンカチをたたんで　たいこをたたきましょう　ドン ドン ドーン　ドン ドン ドーン



もう１回 ハンカチを折って　太鼓に見立てて右手、左手と交互に叩く（上のリズムで）

家でやる時は

洗濯物をたたむ時など日常生活にとり入れてお手伝いの歌として活用してください。

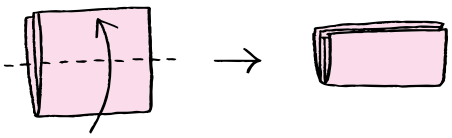


ひとこと memo〈会に参加して〉…家のまわりに同年代の子がいなかったので、一緒に遊べる友だちが増えてよかった。【養育者】

準備物 大きめのハンカチ、または正方形の布

発達の視点 たたむという動作の習得と、お手伝いができるという喜びにつながります。

③ハンカチをたたんで　ハーモニカをふきましょう　　プッププップ　プー　プッププップ　プー

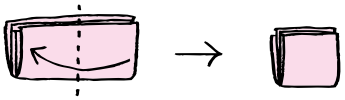


もう１回折って

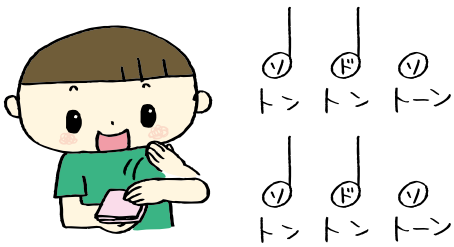


折ったハンカチを持ち、ハーモニカを吹く動作をする（①と同じメロディーで）

④ハンカチをたたんで　カスタネットをたたきましょう　　トン トン トーン　トン トン トーン



もう１回折って
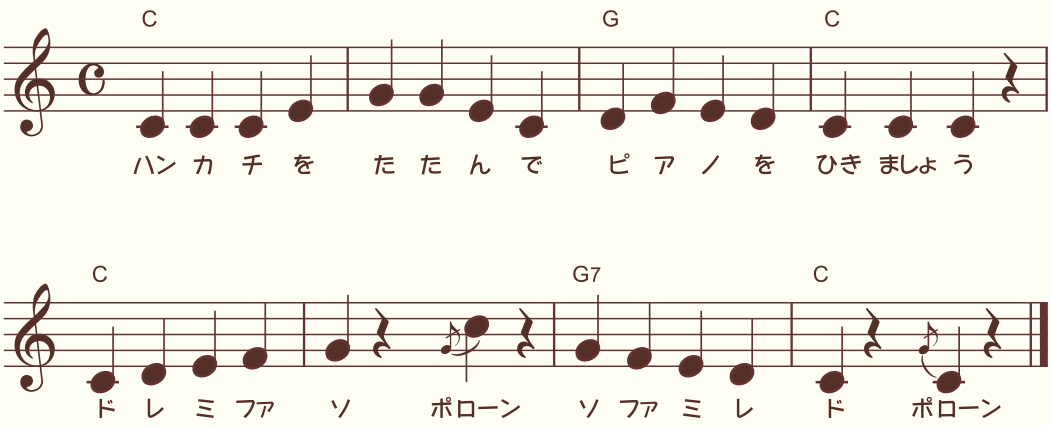


カスタネットに見立てて叩く動作をする
（②と同じリズムで）

出典：『風の子通信 100 号記念号〈遊び編〉』NPO 法人風の子サークル発行

ハンカチたたみの歌

作詞・作曲／不詳



ひとこと memo メンバーはそれぞれ「折り紙が好き」「手芸が好き」「読むのが得意」など個性を生かして活動を楽しんでいます。【どんぐりころころ】

読み聞かせ①

『ころころパンダ』『ゆらゆらパンダ』

時間：約４分
年齢：0〜2 歳位





２つのお話が最後につながる掛け合い絵本。２冊を並べ交互に読みましょう。最後に裏表紙を合わせるのがポイントです！

準備物　**絵本『ころころパンダ』『ゆらゆらパンダ』**
いりやまさとし（作・絵）　講談社　各 税込 777 円

発達の視点　まねしやすいひとこと言葉（とことこ、ころころ、あれっ…など）が多いので、言葉が出はじめの時期に読んであげると、想像力もふくらみ、言語の習得につながります。

あらすじ

眠っているうちに、ころころと坂道を転がってしまうテンテンと、丸太のブランコでゆらゆらと遊んでいるタンタン。テンテンがタンタンのところまで転がってきました！







家でやる時は

「ゆらゆら」「ころころ」「どっしーん」などの言葉に合わせて、動作を親子で楽しんでください。年長さんでもよろこんでくれますよ。

関連絵本
p.27 参照

読み聞かせガイド…

集団が対象のお話会では、細かい描写のものは避け、絵柄や色がはっきりしているか、などに注意して本を選びます。演出をして楽しむ方法（p.46 参照）もありますが、ここでは絵本の読み聞かせのスタンダードな方法をご紹介します。

①読み手は、絵本が全員に見えるような場所に座る。
②絵や字が隠れないように絵本を持つ。
③子どもにわからない言葉、気づかない小さな絵などが出てきたら、言葉と関連している絵をさしながら読むようにする。

ひとことmemo　２冊の絵本を同時に楽しむなんて、斬新ですね！【養育者】

読み聞かせ②

もりのおふろ

時間：約 4 分　年齢：0〜4 歳位



次々に動物が出てくるので、「次はだれだろう？」と期待がふくらみ、想像力が刺激されます。森の動物たちと絵本の世界に入り込めば、心もからだもぽっかぽか。

準備物　**絵本『もりのおふろ』西村敏雄（作・絵）福音館書店**
税込 840 円　※大型絵本　税込 5,880 円

発達の視点　お風呂のマナーや仲間同士の社会性を身につけることができます。

あらすじ

ライオン、ゾウ、ワニ…とたくさんの動物たちが森のお風呂にやってきて「ごしごしごしゅっしゅ」「あぶく ぶくぶく」「ざぶーん」と掛け声をかけながら、輪になって背中流し。最後は大きな大きなお風呂にみんなでつかって、いい気持ち！



家でやる時は　お風呂で声をかけながら絵本の世界を実体験すれば、お風呂嫌いな子も、大好き！ に変わるかもしれませんね。

楽しむコツ

- 子どもに目を閉じてもらい、その間に普通の本から大型絵本へ手品のように変化させ、期待感と驚きを体験させることもできます。
- p.24「さるとおふろ」とセットで楽しめます。※関連した遊びを組み合わせると想像の世界がいっそう広がります。

④話の流れを止めないように、途中、説明や質問を入れずに読む。

※子どもが、その本の世界に最後まで集中していられるように、できるだけ脱線をしない。ただ、途中で質問などがあったら、無視するのではなく、アイコンタクトなどでその子の気づきをできるだけ認める。読む前にも先入観を持たせる言葉かけなどはせず、子どもの想像が自由にふくらむようにする。

⑤できるだけ声色をつかわず、単調にならない程度に抑揚をつけて読む。

※想像力のじゃまをしてしまわないように声色はつかわず、たとえばお年寄りの声ならゆっくり低く、子どもの声は早く高くなど、抑揚で調節する。

ひとこと memo　年齢にもよりますが、お話会の時間は 30 分が目安。あまり絵本だけを続けないで、間に関連した遊びをはさんだりします。【どんぐりころころ】

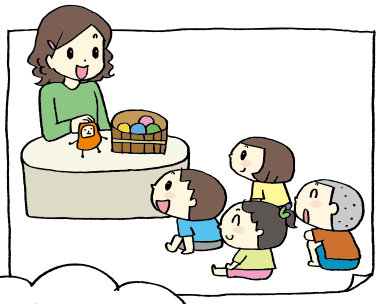
さるとおふろ

時間：約 3 分
年齢：0〜5 歳位

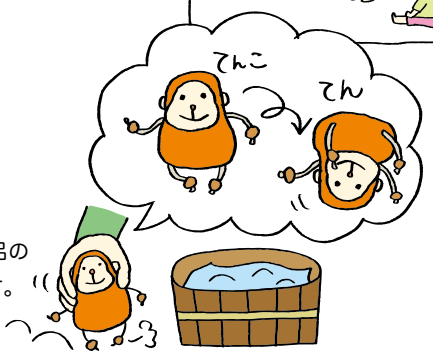


絵本『もりのおふろ』（p.23 参照）を読んだ後におすすめの出しものです。お手玉人形でユーモラスなさるの動きを演じ、わらべ歌調の心地のよい言葉とリズムを伝えましょう。

♥聞き手に一様に見えるように、台などを用意して演じる。1 匹ずつ登場させ、残りの人形は隠しておく。
※「みんなはお風呂、好き？」など、話しかけながらスタート。
※セリフをアドリブで入れると楽しい。



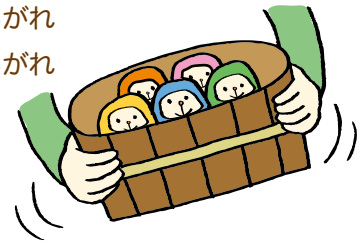
♪さるが 1 匹やってきた　てんこ てん
▶人形の背中をつまみ、ピョンピョンさせながらお風呂のそばに連れてくる。「てんこ てん」で 1 回ひっくり返す。



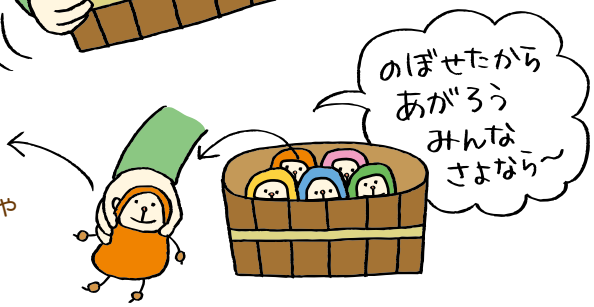
♪ゆ〜さはいる ゆさはいる 1 匹目がどぼん
▶「どぼん」と言いながら、お風呂の中に入れる。
＊以下、さるの数だけくり返し



♪ど〜んぶかっか すっかっか あ〜ったまってあがれ
　ど〜んぶかっか すっかっか あ〜ったまってあがれ
▶両手でお風呂を持ち、左右にゆっくりゆらす。



♪さるが 1 匹 あ〜がった てんこてん
　いいきもち いいきもち あ〜たまってきゃ
▶来た時と反対に、1 匹ずつ引っ込めていく。
＊以下、さるの数だけくり返し



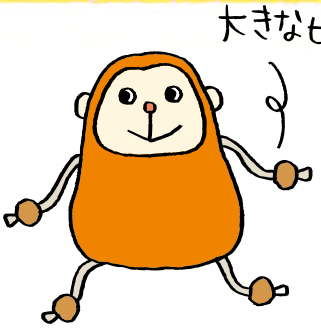
ひとことmemo 新しい絵本などの情報は書店やネットで調べ、できるだけ図書館で取り寄せてもらうようにしています。【どんぐりころころ】

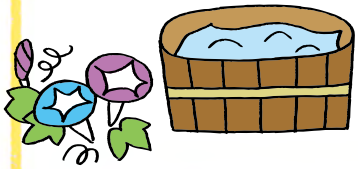
準備物 ★さるのお手玉人形（5つくらい） ★お風呂に見立てた空箱

発達の視点 歌（わらべ歌など）を日常生活に取り入れて、遊びながら生活習慣を身につけます。

さるの人形とお風呂をつくろう

お手玉を胴体にし、フエルトで顔をつくり、
ひもやビーズで手足をつけます。





木や紙の空き箱やプラスチックのお弁当箱などをお風呂に見立てます。水色の薄い布などを中に入れたり、箱の側面に木目のテープなどを貼ると雰囲気が出ます。季節を意識した小道具なども工夫してみましょう（夏なら朝顔、秋はもみじを飾るなど）。

家でやる時は
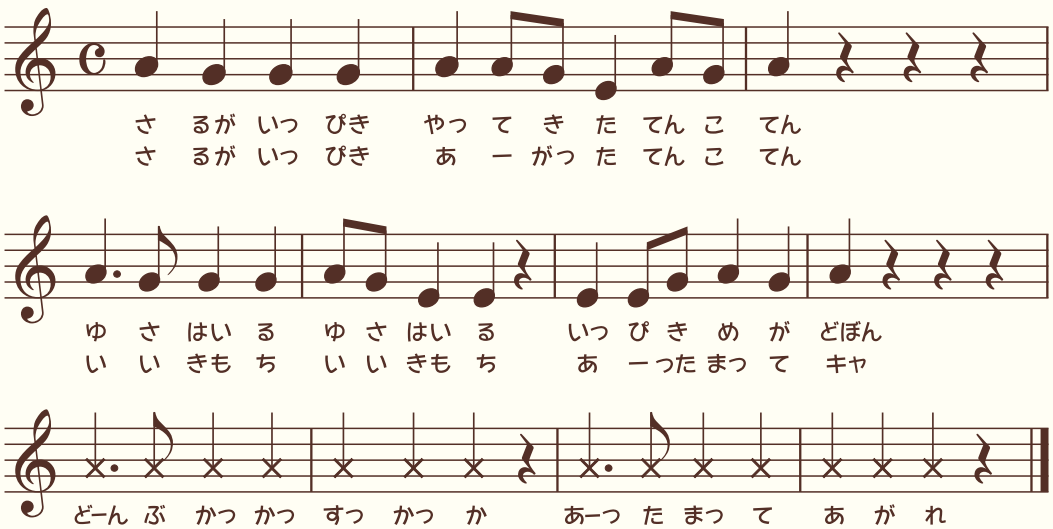
お風呂に入る時に、歌ったり踊ったりを楽しみましょう。赤ちゃんの場合は抱きかかえ、湯船で「ど～んぶかっかすっかっか　あったまってあがれ」とくり返し歌いながらゆすります。



出典：『風の子通信 100 号記念号〈遊び編〉』NPO 法人風の子サークル発行

さるとおふろ

作詞・作曲／藤田浩子



ひとことmemo 演者は人形（見てほしいもの）に集中して演じましょう。そうしないと子どもは人形でなく演者の方を見てしまいます。【どんぐりころころ】

にぎりぱっちり

時間：約 1 分
年齢：6 か月〜4 歳位

手を卵に見立てて握る手遊びです。色とりどりのスカーフが、
様々なものに変化する遊びを通して、想像力を高めます。

発達の視点 手の動きの習得と、変化させたいものを自分で考え、変化させる達成感を味わいます。

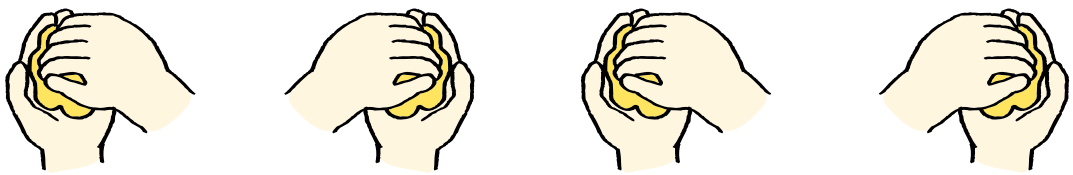
準備物 スカーフ（フワフワとふくらむ布がベスト）

①人数が多い場合は、リーダーを中心に広がって座る。
②ひとりに 1 枚ずつスカーフを配る。
③スカーフを両手で丸め、握り返しながら歌を歌う。

家でやる時は

フワフワの布がなければ、家にあるハンカチやスカーフをつかっても十分楽しめます。

に〜ぎり　ぱっちり　たてよこ　ひよこ　（くり返し）



歌いながら、スカーフ（布）を包んだ手を、右上、左上、右上、左上と返しながら握る

ピヨピヨピヨピヨ〜！



ゆっくり手を開く。卵から何かが生まれるように布が出てくる

♪に〜ぎり ぱっちり
たてよこ カエル ケロケロケロケロ〜！
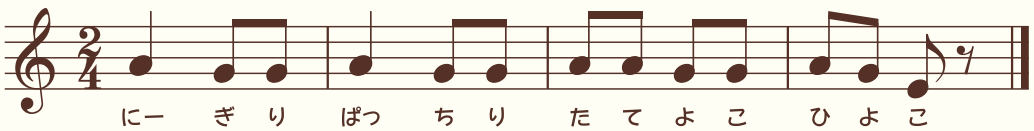


子どものリクエストに応じて、いろいろなものを手から出してみましょう！

出典：『風の子通信 100 号記念号〈遊び編〉』NPO 法人風の子サークル発行

にぎりぱっちり

わらべうた



ひとことmemo 握りしめたスカーフの中から「ピヨピヨピヨピヨ〜」とひよこが出てくる様子を見て、子どもが喜んでいました。【養育者】

コラム

どんぐりころころのおすすめ絵本リスト

絵本は、子どもとのスキンシップや、コミュニケーションをとるのにとても役立ちます。また、様々な登場人物の気持ちを理解したり、次に起きることを予想したりと、想像力を豊かにしてくれます。お話会で、またご家庭で楽しめる絵本を年齢別（目安）に選んでみましたので、参考にしてください。

0～1歳児向け　※価格は税込。

『くっついた』三浦太郎（作・絵）こぐま社　840円

『たまごのえほん』いしかわこうじ（作・絵）　童心社　1,155円

『いないいないばあ』松谷みよ子（作）　瀬川康男（絵）　童心社　735円

『おつきさまこんばんは』林明子（作・絵）　福音館書店　735円

『よこながきしゃぽっぽ』〈仕掛け絵本〉
リチャード・スキャーリー（作・絵）　きたむらまさお（訳）　大日本絵画　1,680円

1～2歳児向け

『ねないこだれだ』せなけいこ（作・絵）　福音館書店　630円

『どうぶついろいろかくれんぼ』いしかわこうじ（作・絵）　ポプラ社　924円

『くだものさん』ツペラツペラ（作・絵）　学研　998円

『どんどこももんちゃん』とよたかずひこ（作・絵）　童心社　840円

『いろいろばあ』新井洋行（作・絵）　えほんの杜　800円

『たたくとぽん　改訂新版』寺村輝夫（作）　和歌山静子（絵）　あかね書房　893円

2～3歳児向け

『バルボンさんのおでかけ』とよたかずひこ（作・絵）　アリス館　1,365円

『でんしゃにのって』とよたかずひこ（作・絵）　アリス館　1,365円

『ぼくのくれよん』長新太（作・絵）　講談社　1,470円

『パパ、お月さまとって！』エリック・カール（作・絵）　もりひさし（訳）　偕成社　1,680円

4～5歳児向け

『はじめてのおつかい』筒井頼子（作）　林明子（絵）　福音館書店　840円

『ねこのはなびや』〈仕掛け絵本〉渡辺有一（作・絵）　フレーベル館　1,260円

『かいじゅうたちのいるところ』モーリス・センダック（作・絵）じんぐうてるお（訳）冨山房　1,470円

★ p.22 でご紹介した掛け合い絵本『ころころパンダ』『ゆらゆらパンダ』の類書

『わたしのおべんとう』『ぼくのおべんとう』スギヤマカナヨ（各 作・絵）　アリス館　924円

※和風のおべんとうと洋風のおべんとうのおかずの交換を楽しめます。お弁当を持つようになる頃にぴったりです。パンダの絵本より上の年齢向き。

ひとことmemo 読み聞かせに興味を示さない子がいたら、その子の好きそうな本を探してみましょう。家で行う場合は、一緒にページをめくるということからはじめてみてください。【どんぐりころころ】

想像する遊び　どんぐりころころより

子どもたちにとって想像力を高めるということは、生きていく上でとても大切なことです。なぜなら、想像力によって他人の気持ちを理解でき、危険を察知することができるからです。

けれども、日常生活だけでは限られた想像力しか育ちません。より高い想像力を育てるには、たくさんの世界を体験することが大切ですが、体験には限界があります。そこで、絵本や紙芝居、手遊び、わらべ歌等によって、自分たちの世界とは別の世界に入り込む必要があるのです。

まだ字が読めず、感受性の強い３歳までは、絵本の黄金時代とよばれています。それは想像力によって、いろいろなものを吸収していく時期だからです。字が読めないからこそ養育者の愛情がストレートに伝わっていくのです。

ここでご紹介したプログラムには、言葉・リズム・ふれ合い・社会性・生活習慣等、いろいろなジャンルのものを盛り込みました。

この本をきっかけに、子どものそばにいるみなさんが、想像力を育むためのたくさんの世界と愛情を、子どもたちに手渡ししてあげてほしいと思います。

親子で楽しめる時間は限られています。だからこそ、その時間はかけがえのない思い出になるのです。



「ハンカチたたみの歌」「さるとおふろ」「にぎりぱっちり」は
『藤田浩子のわらべうたあそび―このゆびとーまれ』藤田浩子著　保坂あけみ絵　発行：アイ企画　発売：生活ジャーナル　参照

どんぐりころころ は…
仙台市内の吉成市民センターを活動拠点に乳幼児やその養育者、小学校や老人ホームでの絵本、紙芝居等を中心にお話会を行っています。
【問い合わせ先】　Tel.022-278-5800　　7270.com@gmail.com

乳幼児期の
ルールにとらわれない創造性を
開花させましょう！
子どもたちはいったん創作活動を
はじめると、みんなアーティストに
変身します。

創造を通して
感情や考えを表現することを学び、
それに共感してもらう経験が
子どもを成長させます。

色をまぜ合ったり
粘土を交換したり…友だちや
養育者との協力で、
ちがう作品が生まれる経験もできます。
作品をほめ合う時間も
大切です。

Part 3
創作する遊び

遊びの提供
ARTS for HOPE の みなさん

汚れてもいい服、環境、
安心な材料を整えておけば
あとは手型をつけたり
足あとをつけたり…も、楽しむことが
できるようになります。

材料には
身近なものをどんどん利用。
アイディア次第です。
養育者のみなさんが思い切り
子どもと楽しんでみると
自分も気分爽快になれますよ♪

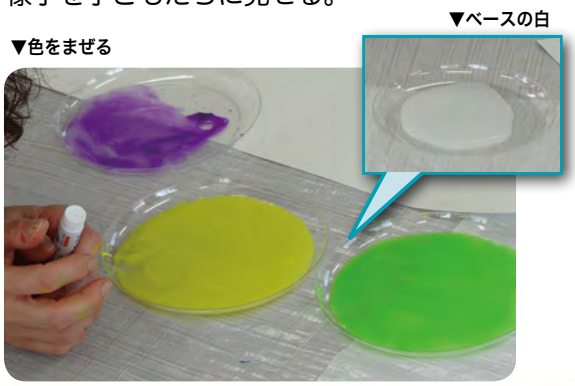
つるつるすべすべ色遊び

時間：約 30 分
年齢：1〜5 歳位

クレヨンや筆を持たずにできる絵画活動です。手をつかって描くことで、自分の動きで描かれる線、形、色のちがいに気づき、おもしろさを感じることができます。

※床の汚れ防止にシートなどをしく。　※汚れてもよい服装で参加してもらう。

①天然のりに色をまぜて、色別に容器に移す様子を子どもたちに見せる。



②できた絵の具を手に直接つけて、画用紙に線や形を描いて見せる。

天然のりをつかった絵の具の特徴

- のりをベースにするので絵の具が少量ですむ！
- 色素が薄いので洗い落としがラク！

※天然のりは絵の具も少量のため、誤って口に入れても安心と、一般的には言われていますが、万が一、口に入った場合は水で洗い流してください。

天然のりの作り方＋絵の具のまぜ方（5〜6人分）

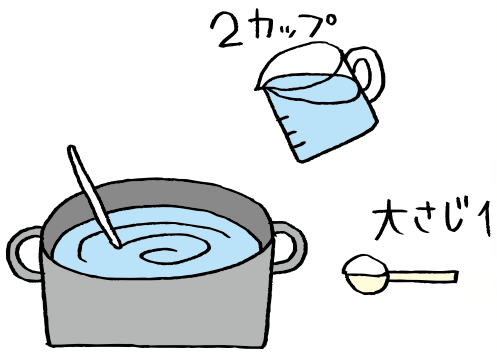
(1) 鍋に水 2 カップを入れ、大さじ 1 のコーンスターチ（または片栗粉、小麦粉）を加える。

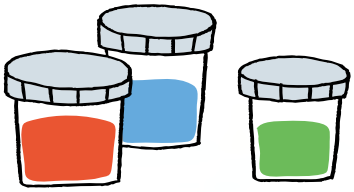
(2) ダマがなくなるまでしっかりかきまぜてから強火にかけ、まぜながら加熱する。

(3) 透明感が出てきたら、少し火を弱め、沸騰したらこげつかないように底からよくかきまぜる。

(4) 弱火でさらに 4 分程加熱したら、天然のりのでき上がり。

(5) ポスターカラーまたは絵の具をまぜる。
※絵の具の量は小指の先程度で十分。
※ふた付きのビンなどで 1 週間程度、保存可能。





ひとこと memo 絵の具と天然のりがまざる瞬間、子どもの目がくぎづけでした。【養育者】

準備物
★天然のり　★ポスターカラー（または水彩絵の具）
★絵の具用容器（紙皿など）　★画用紙　★養生シート（新聞紙可）

発達の視点
自分の手を動かし、目で見ることで認識される線や色の世界や描くことの楽しさは、創造力に働きかけます。また、手にふれて感じたことを表情や言葉で表現することにつながります。

③テーブル上にセットした紙の上で、子どもたちに自由に描いてもらう。









※まぜすぎると色が濁ってしまいます。きれいな混色ができた時点で、紙を変えるとよいでしょう。

④描けた絵を見せ合う。

⑤活動の最後に、手などについた絵の具を拭き取ったり、洗ったりする。

楽しむコツ

- 1歳半より前の子どもが参加する時は、テーブルだけでなく床も使用して、遊びながら参加できるように工夫するとよいでしょう。
- 描けた絵を見せ合って、拍手したり、話すことができる子どもは感想を述べたりするようにすると、完成したことの喜びやうれしさをそれぞれの子どもの年齢で感じることができます。

ひとことmemo 普段、家でお絵描きなどしないので、興味がないと思っていました。集中している姿に驚きです。また、少人数でするよりも、大勢で集まった時に絵の具をつかって遊ぶというのはいいなぁと思いました。【養育者】

ふしぎはじき絵

時間：約 30 分
年齢：3〜5 歳位

クレヨンで描いた絵に絵の具を塗ることによって、絵が浮きあがる「はじき絵」。絵が浮き出る不思議を目で確認し、線への気づきを促します。

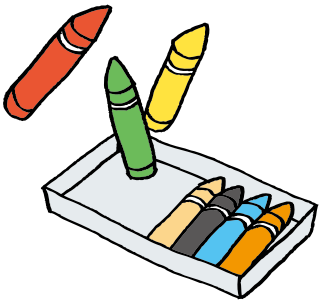


※床の汚れ防止にシートなどをしく。
※汚れてもよい服装で参加してもらう。

①画用紙にクレヨンで自由に絵を描く。
②その上に絵の具を塗ることで、クレヨンで描いた絵が浮かびあがる。



水彩絵の具は、薄めに溶きましょう（透明感があるくらい）。濃いとうまくクレヨンをはじきません。









ひとことmemo 作品をたくさんほめましょう。子どもの絵は世界でたったひとつです。色づかい、線の太さ、勢い、そしてつかった道具など、ほめどころ満載なはずです。【SCJ】

準備物 ★クレヨン　★水彩絵の具　★絵の具用容器（紙皿など）　★水差し
★筆　★画用紙　★養生シート（新聞紙可）

発達の視点 変化を認識し、それに驚いたり、楽しんだりします。



楽しむコツ

- 1歳半より前の子どもが参加する時は、テーブルだけでなく床も使用して、遊びながら参加できるように工夫するとよいでしょう。
- 白や薄い色のクレヨンをつかうことで、絵の具を塗った時に線描が鮮明に浮き上がる効果を楽しむことができます。

ひとこと memo 新しいものを創り出すことはものごとの仕組みを理解することであり、脳の発達にもつながると考えられています。【SCJ】

創作する遊び　ARTS for HOPE より

０～５歳児対象の“創作する遊び”ということで、はじめての創作体験で色のちがいや配色を楽しみ、それぞれの子が自分の動きで生まれる線や形の不思議さ、おもしろさに没頭できるように誘導できる、創作遊びをご紹介しました。その体験が、創造力を豊かに育む種となることを願っています。

創造力は、無から有を生み出す無限の可能性を秘めています。それは芸術品を創造するだけでなく、建設や農業、街づくりや国づくりなど、すべてに生かされる力なのです。

創作する遊びを通して、子どもたちが豊かな人間に成長していくことを心から願っています。



ARTS for HOPE は…

東日本大震災で心に大きな負担を抱えた子どもたちを対象に、「アート」や「ものづくり」を通した心穏やかな時間と温かなコミュニケーションスペースをお届けしています。

【問い合わせ先】　Tel.03-6240-1525　　artsforhope@gmail.com

ここで紹介する遊びは
ブロックを積み上げては崩し、
パズルを完成させては崩す「くり返し」が
キーワードです。
時に煩わしく感じることもありますが、
これは次の段階への
大切な準備なのです。

赤ちゃんに指を差し出すと
なかなか離さない時がありますよね。
これは反射的にまわりの世界を一生懸命に
知ろうとする行動です。
筋肉の発達とともにものをつかむ、
形を合わせる、小さなものをつまむなど
より複雑な動きが
できるようになります。

Part 4
手をつかった遊び

遊びの提供
ボーネルンドの みなさん

パズルや積み木、
ブロックでつくったものを
ほめることで
子どもの自信へとつながります。
たくさんほめてあげてください。

積み木

時間：指定なし
年齢：1歳位〜

積んだり、くずしたり、並べたり、様々な立体を組み合わせながら遊ぶ積み木は、想像力によって何にでも変身します。積み木で遊んだ経験が、将来の数学的な概念や造形的な概念の基礎を育みます。



1歳〜

カチカチ鳴らしたり、並べることからはじめてみましょう。養育者が積んだものをくずすのも楽しいです。

3歳〜

高く積み上げたり、何かを想像して形づくってみましょう。

形合わせ

時間：指定なし
年齢：1歳位〜

同じ形を見つけて遊ぶ「形合わせ」のおもちゃで遊びましょう。よく観察し、実際に触れてみることをくり返して、子どもたちは色や形を認識する力を養っていきます。何度でもくり返して楽しむ時期にぴったりです。

大人にとってかんたんでも、子どもにとっては意外とむずかしい形合わせ。何度もくり返して遊ぶうちに手先の器用さを養います。



ひとこと memo 積み木を積んでもすぐに壊すから嫌だったのですが、それにも意味があるんですね。【養育者】
家ではテレビばっかり見ているので、遊びの中で課題解決をするようなおもちゃはいいなと思いました。【養育者】

ビーズ

時間：指定なし　年齢：3 歳位～

ビーズ遊びは、指先で「つまむ」「通す」などの細かい動きを促しながら、目と手の協応運動※、数、色、大きさ、形などの認識遊びにもつながります。高い集中力を維持しながらふれることで、ビーズの「数」や「形」に対する認識も高めます。

ビーズの穴にひもなどを通して遊びます。
低年齢の場合は写真のような、棒に通すタイプからはじめるといいでしょう。
うまく通せるようになったら、数や色、大きさ、形などのルールを決めて通してみましょう。



※ 生後 3、4 か月頃から自分の目の前にあるものに手をのばし、つかんだり操作したりすることを目と手の協応運動と言います。
引用『発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』本郷一夫 / 編著 建帛社 2007

ブロック

時間：指定なし
年齢：1 歳位～

最初はくずすことからはじめます。次第にひとりで積めるようになり、何度もくり返すことで、子どもたちは動きをどんどん獲得していきます。

ブロックをたくさん積み上げて、グラグラ、ガシャーンとくずして、また積んでと、くり返し遊びが楽しめます。
形遊びや色遊びとからめても楽しいです。



ひとこと memo 普段は興味を示さないおもちゃで遊んでいるのを見てビックリしました。友だちと一緒だと遊ぶみたいですね。【養育者】

パズル

時間：指定なし
年齢：2 歳位～

パズル遊びで大切なのは、「できた！」という達成感。色や形がはっきりしているものからはじめ、ステップアップしていくことで、達成感を感じながら集中力や認知力が育まれていきます。

♥ジグソーパズルのタイプや、形を合わせてはめこむタイプのパズルがあります。





布絵本

時間：指定なし
年齢：6 か月位～

めくったり、触ったりを楽しめる布絵本は、赤ちゃんの手遊びを促します。感触を楽しむようになる時期にぴったり。

♥めくりながら手遊びをしたり、お話をつくって語りかけて遊びます。

めくるたびに「いないいないばぁ」や「ひっぱりっこ」などの手遊びが楽しめます。
シンプルな絵柄は、お話をつくったり、言葉遊びなどに広がります。





ひとこと memo よくチラシなどをグシャグシャに丸めてずっと握っている子がいますが、それはその音が胎内で聞いた音に似ているからだとも思われます。【ボーネルンド】

コラム

地域のサポート機関を活用してみましょう

みなさん自身で会を開く時に、活動場所や内容の面などでサポートしてくれる地域の公的機関等をご紹介します。ぜひ活用してみてください。

※地域によっては呼称が異なりますのでご注意ください。

役所の子育て支援課や子育て支援センター

自治体で設置されている福祉、児童、保健に関わる公的な窓口です。活動全般について相談してみましょう。地域の子育てグループがよくつかっている場所や、おもちゃの貸出等をしているところなどの情報を教えてくれます。

教育委員会の生涯学習課

自治体によっては、子育て支援課の他にも教育委員会の中などに子育てを応援している機関があります。生涯を通し楽しく学び、豊かな人生を送れる社会の実現を目指しています。その事業の一環として、子育てサロンの出張や、養育者向けの学習講座等も実施していますので、ご相談してみてください。

社会福祉協議会

NPO と呼ばれる非営利を目的とした市民団体等の活動を集約したり、民生委員、児童委員との連携、また高齢者、障がい者、子育てなど様々な分野の地域のボランティアと協働し、地域の福祉の向上を目指す機関です。子どもに関する活動を行っている団体（読み聞かせ、工作など）を紹介してもらえるでしょう。活動における様々な面で相談してみるといいかもしれません。

公民館・児童館

活動の場所について相談してみると、安くて便利な場所を紹介してくれたり、子どもに関連する団体（読み聞かせ、工作など）の情報を知っていたりすることもあるので、問い合わせてみてはどうでしょうか。

ひとこと memo 〈会に参加して〉…広い場所で、のびのびと遊べるので、家ではできない遊びが友だちと一緒にできるようになった。【養育者】

手をつかった遊び　ボーネルンドより

子どもにとって、遊びは生活のすべてです。乳幼児期の遊びによって得られる多様な経験は、この時期にしか体験できない貴重なものです。子どもは遊びながら、自分で考えること、チャレンジすること、想像すること、人と協力することなど、生きるために必要なあらゆる力を獲得していきます。

ボーネルンドは、優れた遊びの道具と環境の提供を通して子どもの健全な成長を応援しています。

目で見たものに対して、正確に手や指を動かせることを目と手の協応運動と呼び、これは実際にからだを動かすことでしか養われません。指先を動かすことで脳が活性すると同時に、視覚と指の動きを統合することで、手や指を思い通りに上手に動かす巧緻性を高めることもできます。

今回ご紹介した“手をつかった遊び”では、指先を動かすことはもちろん、お子さまの成長に合わせて色遊びや形遊びなどいろいろな遊びとからめて楽しむことができます。ぜひ親子でたくさん遊んでみてください。



参考

3 か月～ 6 か月

自分の手の存在に気づき、手をのばして握ったり、持ったり、振ったりできるようになります。
（おすすめの遊び道具：ガラガラ、吊り下げ玩具など）

6 か月～ 9 か月

親指と他の 4 本の指でものがつかめるようになります。
（重ねる・入れる・出す、つかむ・投げることができる玩具、感触を楽しむ玩具）

9 か月～ 12 か月

親指や人差し指で小さなものをつまむことができます。手先だけでなく腕全体を動かすことができます。手でつかんだものを投げることができるようになります。
（重ねる・入れる・出す、つかむ・投げることができる玩具、感触を楽しむ玩具、布絵本）

12 か月～

両手を上手につかって、目で見たことをその通りに動かすことができるようになります。
（たたく、投げる、入れる、出す、積む、重ねる、つかむ、つまむ、回す　などが楽しめる玩具）

株式会社ボーネルンドは…

ボーネルンドの名前は、デンマーク語で「borne ＝子ども」と「lund= 森」を意味する 2 つの言葉からつけられました。創業以来 30 年以上にわたり世界中から厳選した「遊び遊具」を提供し続けています。

【問い合わせ先】　Tel.0120-358-518　　http://www.bornelund.co.jp

人のコミュニケーションは
泣く、笑う、手足をバタバタさせるなど
非言語の世界からはじまります。
小さな子どものメッセージは
身振りが中心ですが、
それをキャッチし言葉に変えていくと
子どもはどんどん吸収していきます。

小さな子どもたちは
同じ場所にいても、最初は
一緒に遊ぶことは少ないですよね。
でも実はお互いの存在は感じていて
その段階を経てのちに
一緒に遊ぶようになります。

Part 5
コミュニケーションを用いる遊び

遊びの提供
apconcept（アップコンセプト）のみなさん

コミュニケーションは
養育者と子どもの二項関係から
ものを介した三項関係に変わっていきます。
身近な言葉や動きを意識し
遊びにとり入れることで
子どもの成長・発達の幅は
広がっていきます。

エネルギーチェック

時間：約 10 分
年齢：0〜5 歳位

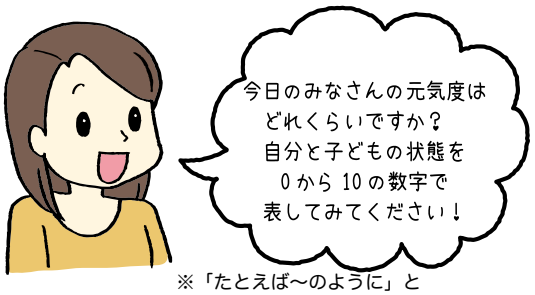
自己紹介の時間に参加者の“ エネルギー度 ”（心とからだの状態）を聞き、自分と子どもを客観的に判断してもらいます。状態を数値化することで、無理してしまいがちの自分をちょっと反省！セルフメンテナンスへの意識が高まります。交流のきっかけにもなり、次の遊びにもスムーズに進めるので導入としてもおすすめです。（今日はこのくらいにしておこうか）（あまりこの子を動かすのはやめよう）など、リードする側の参考にもなります。

※養育者自身のセルフケアが第一の目的ですが、子どもの様子を客観的に観察する習慣づくりにも効果的です。

楽しむコツ

短い時間で、直感的に答えてもらいます。話を聞きすぎず、あくまでも導入として行いましょう。

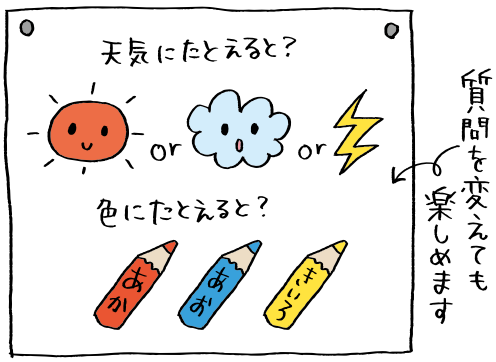
♥円座になります。養育者のひとりがリーダーになり、「自己紹介をしましょう」と声かけをし、それからエネルギー度を聞きます。



※「たとえば〜のように」と例を出すといいでしょう。







ひとことmemo〈会に参加して〉…自分より小さな子に対して〝やさしくめんどうをみよう！〟という気持ちを持ってくれたようです。【養育者】

楽器遊び

時間：約 10~15 分　年齢：0〜5 歳位

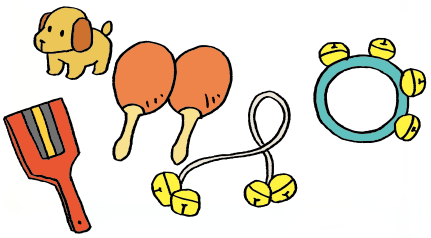
音の出るおもちゃや、身近なものでできるかんたんな手づくり楽器で五感を刺激します。音のやりとりを通したコミュニケーションを楽しみましょう。音にふれること自体が遊びで、楽器を上手に扱わせることが目的でないことを伝えましょう。

発達の視点　子どもは感覚遊びを楽しむ乳児期から、楽器づくりそのものを楽しむ幼児期へと変化していきます。また、音を通して五感が刺激され、様々な動作や発話が促されます。

①サンプルの楽器などを真ん中に出し、子どもたちがどんな楽器や音に反応するかに注目。袋などに入れておいて探索させるのも楽しい！

※子どもは音が大好きです。自分の動作が音を生み出す、そのことだけでも子どもにとっては遊びです。

サンプル楽器の例



手づくり楽器の例



楽しむコツ

子どもと一緒にその場で楽器づくりをはじめてもよいし、音の出るものを各自で持参したり、養育者が即席楽器を用意してもいいでしょう。

②養育者は見ているだけでなく、子どもが鳴らした音に、別の音で返したり、新たな音を鳴らして子どもの注意を引くなど、刺激する。

家でやる時は

小さい材料を誤飲しないように、しっかりテープでとめるなど、安全に注意しましょう。

ひとことmemo　他者とコミュニケーションをとるだけでなく、自分の心と自分のからだでコミュニケーションをとることを心がけましょう。【apconcept】

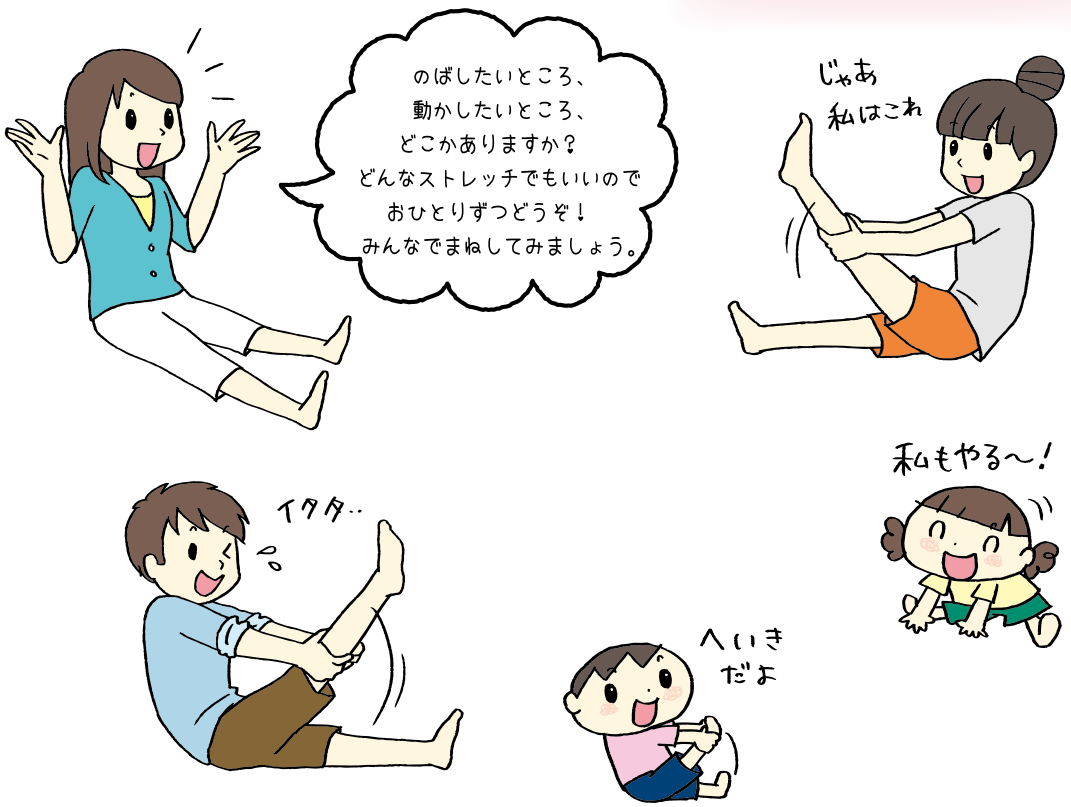
ミラーリング

時間：約 10〜15 分
年齢：0〜5 歳位

かんたんなまねっこ遊びで気持ちの交流を促します。気持ちと動きの関係性や子どもの身体発達を知る手掛かりともなります。

①円になって座り、導入として、まず養育者同士のミラーリングを行う。
ひとりがリーダーになって、「みんなでストレッチをしましょう」と投げかけ、順番に好きなところをストレッチし、
それをみんなでまねしていく。

※一緒にできそうな月齢の高い子どもたちも誘いかけましょう。



家でやる時は

養育者が子どもの動作をまねする、養育者の動作を子がまねできるか投げかけてみる、などをきっかけにしてみましょう。おもちゃなどを介す必要もなく、親子の表情やからだそのものが遊びの材料になるので、いつでもどんな場所でも行えます。鏡のようにまねっこし合うことがゲームや遊びのようになり、そこから別の遊びを子どもが考え出すなど、様々な親子のコミュニケーション遊びに発展することも期待できます。

ひとことmemo ふれ合い遊びに慣れているかいないかは、見るとすぐにわかります。最初は緊張していた養育者に笑顔が出てくるとうれしいです。【apconcept】

発達の視点 子どもの動きをまねることで、発達段階を再確認したり、動作にともなう子どもの気持ちに気づくこともできます。子どもにとっては自分をまねてくれるという体験が、「見守られている」「受けとめてもらえている」という安心感につながります。

②子どもの提案する動きをまねしていく。みんなの前ではやりたがらない子どもの場合でも、その動作をリーダーが取り上げる。



③様子を見ながら、「今度は親子でまねっこし合ってみましょう。動物みたいに歩いたり、ゴロンと寝そべったり…どんなことでもいいですよ」などと声をかける。

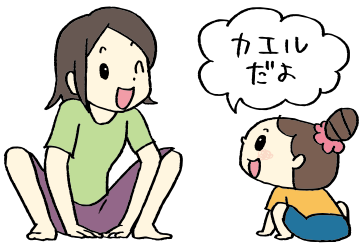
※赤ちゃんのハイハイやニギニギ、足バタバタなど、特徴的な動きも拾いましょう。





楽しむコツ

わが子のまねだけでなく、いろいろな参加者のまねをしてみることで、子どもの個性や特徴がわかって楽しめます。



ひとことmemo まねっこ遊びは大人が動きたい気持ちになって行うと、子どもも気持ちが乗って、もっと楽しめます。【apconcept】

絵本で遊ぼう

時間：約 10 分
年齢：6 か月〜5 歳位

養育者が絵本を輪読。途中で遊びを交えながら、絵本をコミュニケーションツールとして楽しみます。静かに聞いて想像力を育む読み聞かせとは、ちがう形の展開の仕方です。みんなで楽しむために、大型絵本を用意できるといいでしょう。

①「ひとりの人が読む役となって進めるのではなく、みんなで完成させていく参加型のシアターです」と伝え、全員の参加を呼びかける。

②子どもたちには音を鳴らしたり、言いたいことや聞きたいことを言っていいことを伝える。

③絵本を輪読（養育者が順番に）しながら読み聞かせを行う。

※養育者の声で読んでもらうと、子どもは安心できます。

④途中で質問を投げかけたり、動きをまねしたりしながら子どもたちとコミュニケーション！



家でやる時は

どんな絵本でも、子どもとのやりとりや会話を楽しみながら行うことができます。主人公になって演じてみる、本の続きを考えるなど、絵本を介して想像をふくらませて、親子ならではの遊びに展開できるといいですね。

ひとことmemo 絵本に興味を示さない子どもがいますが、友だちと一緒なら関心を見せたり、本を一緒に図書館で探す、といったことがきっかけで変わる場合もあります。【SCJ】

準備物 ★ビッグブック『はらぺこあおむし』エリック・カール（作・絵） もりひさし（訳）偕成社　税込 10,290 円　★ p.43 でつかったような楽器　★スカーフなど

発達の視点 月齢によってできることには差があります。幼ければ、単に目で追って絵本を楽しむだけで十分。年齢が上なら、音をつけたり、あおむしのイメージをふくらませるなど、ストーリーをヒントに、より発展させたアレンジ遊びができます。



©1969 & 1987 by Eric Carle

題材『はらぺこあおむし』　あらすじ

卵からかえった小さなあおむしはとてもおなかをすかせています。月曜日から土曜日まで子どもたちも知っている様々な食べものをたらふくたべて、結局おなかが痛くなってしまうあおむし。緑のおいしいはっぱを食べて、さなぎになったかと思うと、最後は色鮮やかな蝶になりました。



スカーフで蝶になった様子を表現…
子どもたちに主体的に参加してもらうと、じっと座って聞く体験とは異なる、ダイナミックな遊びが生まれます。

楽しむコツ

ワンシーンをお芝居みたいにしてみたり、絵を描いたり、音をつけたり、絵本を離れて続きを考えてみる…など、いろいろな遊びに発展させることができます。

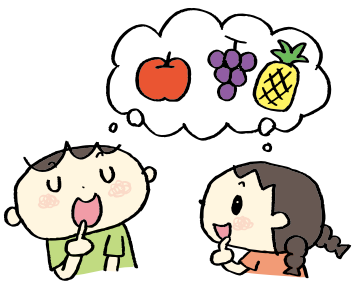


楽しむコツ

●読み終えた後に、子ども同士や、養育者と子どもでタッチすることで、お話の終わりを意味したり、達成感・一体感が生まれます。

●読み手である養育者が楽しむことがポイント。そうすると聞き手の子どもも楽しむことができます。





ひとことmemo〈会に参加して〉…静かに話を聞くことがあまりできなかったけれど、絵本なども座って聞けるようになってきました。【養育者】

おふねをこいで

時間：約 5~10 分
年齢：0〜5 歳位

だれでもすぐに覚えられる、どんな月齢にも対応できる、かんたんなふれ合い遊びでコミュニケーションを高めましょう。グループ全体の気持ちとからだをほぐすこともできます。

♥養育者のひとりがリーダーになり、まず自分の子どもと一緒にやってみせて（人形でも可）、歌と動きを覚えてもらう。

乳児の場合

①養育者が足を投げ出して座り、ひざから腿のあたりに子どもを寝かせる。または、タオルやシートなどの上で、仰向けに寝かせる。
②足首を軽く握り、「おふねをこいで」のフレーズで１回、足を平泳ぎのように回して、のばしたり曲げたりする。
③「おさかなたくさんとれろ」の時は子どもの足を上下にゆらしたりする。

※ベビーマッサージの要領で、子どもの喜ぶ範囲で動きの刺激を加えます。



からだもしっかりとしてきた１歳児からの場合

①足を投げ出して座り、その上に向い合わせで子どもを座らせる。
②手をつないで、ぎったんばっこんをするように船をこぐ。
③「おさかなたくさんとれろ」の時は、養育者の足をバタバタゆらして子どもを刺激する。

※２回目以降は、より大きく船をこぐなど、ダイナミックな動きにアレンジしてみましょう。

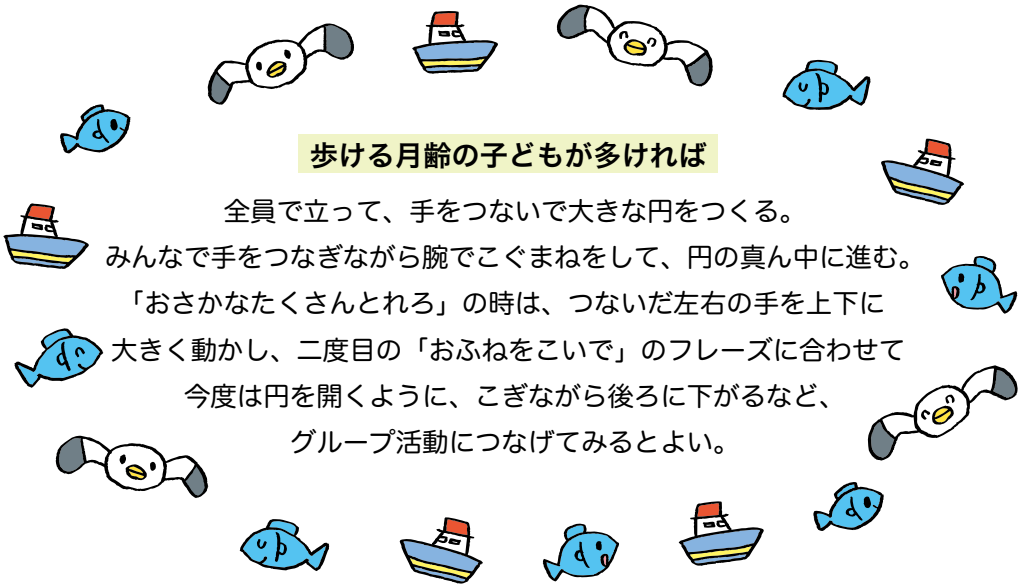






準備物 デモンストレーション用の人形やぬいぐるみ

発達の視点 それぞれの月齢の動きのちがいなどを養育者同士が知るきっかけにもなります。



歩ける月齢の子どもが多ければ

全員で立って、手をつないで大きな円をつくる。
みんなで手をつなぎながら腕でこぐまねをして、円の真ん中に進む。
「おさかなたくさんとれろ」の時は、つないだ左右の手を上下に
大きく動かし、二度目の「おふねをこいで」のフレーズに合わせて
今度は円を開くように、こぎながら後ろに下がるなど、
グループ活動につなげてみるとよい。

家でやる時は

子どもの反応を見て、一緒に動きを考えたり、アレンジを加えて楽しんでください。
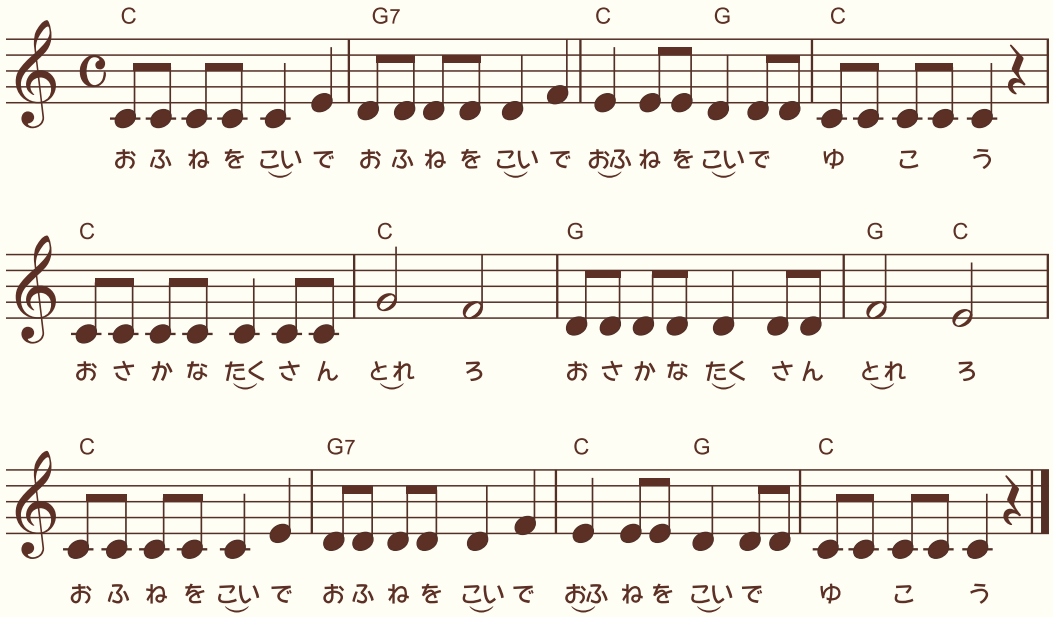
楽しむコツ

月齢によって、振り付けのパターンを提案し合うとよいでしょう。

※協力：ベビールームままのて♪

おふねをこいで

曲／北欧ラップランド民謡“アチャパチャノチャ”
作詞／不詳



ひとことmemo いつもあまりできずに終わってしまうことが多いのに、コミュニケーションの遊びにはうちの子にもできることがすごくたくさんありました。【養育者】

コミュニケーションを用いる遊び apconcept（アップコンセプト）より

私たちは、生きている限り何らかの形でコミュニケーションをしています。生まれたての赤ちゃんは、お腹が空いたら泣くことで意思を伝え、お母さんはおっぱいを与えることで要求に応えます。さかのぼると、お腹の中にいる胎児期から母親は胎動の動きに気づいてお腹をさする、といった相互交流がはじまるのです。このような非言語を含むコミュニケーションは親子、夫婦、友人、知人、知らない人との間で常に行われています。

コミュニケーション遊びでは、人と人が言語や非言語（動きや音、アートなど）をやりとりすることで生まれる一体感やお互いへの理解が深まることの喜びを分かち合うことが目的です。一方的に「受け取る」「与える」だけではなく、相互に関わり合うことで、そこにはかけがえのない遊びが生まれてくるのです。「上手」「下手」「正しい」「まちがっている」という価値観を一旦、脇にどけて、やりとりそのものを楽しんでみましょう！

また、コミュニケ―ション遊びには、もうひとつ別の意味合いがあるといえます。私たちのからだは、脳と身体器官、感情とからだ、というように体内でも常にコミュニケーションがなされていると考えてみましょう。いいことがあれば、からだは弾み、笑顔がこぼれ、うれしい感情が込み上げてきます。気分が沈めば、食欲も低下し、からだも重く感じるかもしれません。人とのコミュニケーションを楽しむ一方で忘れてならないのは、自分自身との対話です。自分の心とからだは今どんな状態かな？自分に必要なものはなんだろう？ 親子やグループでコミュニケーション遊びをしながら、お子さんと、お母さんお父さんが、自分自身とも、より心地よく関わることができるといいと思います。



apconcept は…

心とからだ、自分と自分、人と人とのコミュニケーションを大切に、子どもの発達年齢に合わせたコミュニケーション遊びを紹介してくださいます。

【問い合わせ先】 Tel.03-3998-5929 info@apconcept.jp http://www.apconcept.jp

何から決める？

安全に遊ぶには

これがあると
便利！

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
復興支援の学び

仲間を集めて遊びの会を開こう！

書類も大切！

遊びの専門家
を呼ぶには？

時間割を
つくってみましょう

チラシで
よびかけましょう

はじめに仲間と決めること

遊びの会を立ち上げる仲間が集まったら、「いつ、どこで、何を…」といったことを、少しずつみなさんで決めていきましょう。ポイントをあげましたので、参考にしてください。

いつ 無理なく参加できる日程と、程よい頻度（毎週、隔週、月１回等）を検討しましょう。定期的な活動にすることで…
（１）子どもの生活にリズムができ、
（２）仲間を増やすのに声をかけやすくなり、
（３）他の予定も立てやすくなります。

時間帯 たとえば平日の午前中に行うと、お昼寝、食事、他のきょうだい（幼稚園児・小学生）の時間に左右されることなく活動することができます。

どんな場所で みんなが通いやすい、近場の会場がいいですね。その時の参加者数によって、会場の広さを検討しましょう。また、参加する子どもの年齢に合った遊びを、のびのびと安全にできる場所が安心です。冷暖房の有無や衛生管理がいきとどいているかも考慮しましょう。

※予約がとりにくかったり、手続きがたくさんある施設もあるので事前に確認しましょう。

何して遊ぶ 活動頻度に合わせ、どんなことをしたいかを話し合います。この本を参考に遊びを選んだり、行事をとり入れるなどしましょう。年間計画を立てると活動が進めやすく、まわりに声をかけやすくもなります。

※行事を計画していても欠席が多くてできないという時は、行事を延期し、特別な準備を必要としない「自由遊びの日」と活動を差し替えるといいでしょう。

役割分担 ひとりの負担にならないように、リーダーや会計係等を必要に応じて決めます。記録係、連絡係、活動準備・片付け係は当番制にするなど、支え合って活動を続けていくためには、役割分担するのが秘訣です。

ルール 「休む時は山田さんに連絡」など、かんたんなルールをつくることで、集団活動が進めやすくなります。ルールは「この活動がどのようになってほしいか」にもつながりますので、定期的に話し合う機会を設け、みんなで決めていくのがいいですね。

会費 活動費 会費などは、負担にならない金額を仲間で相談して決めましょう。つかい道は大きく分けて２つ。
（１）実費：会場費、工作などの材料費、外部から人を呼ぶ場合の謝礼金、遠足などの費用等。
（２）運営費：毎回のおやつや飲み物、連絡のための通信費を含む、固定でかかる費用等。

※内容によって、月単位や半期単位などで集めます。費用の管理は担当を決め、かんたんな帳簿をつけるのがおすすめです。

※〝帳簿〟は、家計簿のような感覚でつければ大丈夫！他にも、メンバーの情報を記録する〝登録用紙〟や、毎回の〝記録用紙〟〝出欠表〟などを準備すると便利です。巻末の資料を参考にしてください。

ひとこと memo 新しいメンバーを迎える際には、会費など活動にかかる費用について、最初にきちんと説明すると気持ちよく続けられます。【SCJ】

仲間を募って活動を広めましょう

効果のある方法 BEST3

1 口コミを利用する

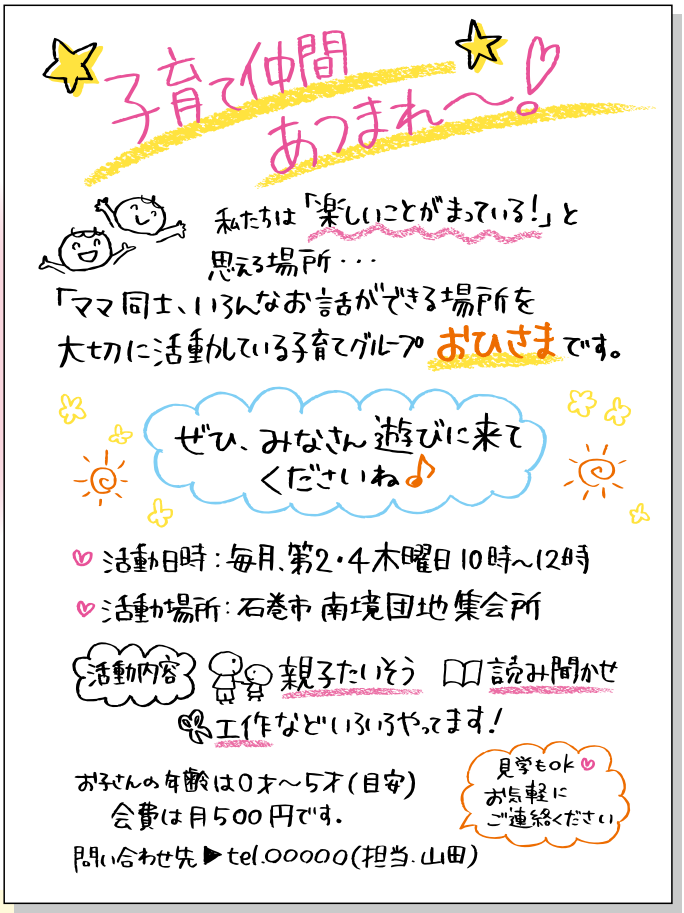
※同年代の子を連れている人が近所にいたら声をかけてみましょう。子どもの健診に来ている人に直接声をかけてみるのも効果的です。

2 SNS を利用する

※ソーシャル・ネットワーク・サービス
【例】mixi や facebook

3 チラシを作成して掲示する

※右はチラシの一例



告知に必要な情報

SNS とチラシとでは、載せられる情報量が異なりますが、ひとつのグループから共通の情報が発信されるように、「いつ、どこで、だれが、何を」等のポイントとなる情報を事前に統一しておくことをおすすめします。

掲示・設置場所

活動場所の近くの掲示板、みなさんがよく行くスーパーや公園、定期的に行く保健所や子育て支援センターなどが効果的です。チラシを置かせてもらったり、ポスターを掲示してもらう際には、必ず管理者に許可をとります。

写真掲載の注意

SNS 等を通して活動の様子を掲載する際は、悪用されることもあるので、個人が特定されない写真を使用することをおすすめします。

役割分担

絵を描くのが好き、携帯電話やパソコンの操作が得意、という人がいたら、得意分野を生かして広報活動をしてもらいましょう。

ひとことmemo チラシやポスターをつくる時、活動中に子どもが描いた絵を載せたりすると、ステキなアクセントになります。【SCJ】

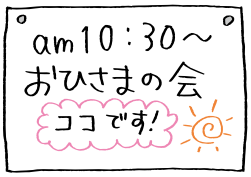
活動の流れを時間割で考えましょう

ある日のスケジュール（例）

10時

10:15 ～（15分）

- 掃除 ●会場設営
- 安全対策（p.56参照）
- 案内の掲示



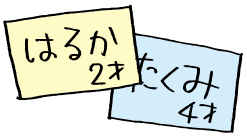
※早めに来て準備する人を当番制などにするとよい。

★子どもの気をひくようなテレビやパソコンを隠す。マットを敷く。おもちゃ（自由時間に遊べるパズルや絵本など）を出す、など。

10:30 ～（5分）

- 受付開始
- 名札つけ

★名札は参加者が作成（できれば養育者の分も）。
★名前・年齢を記入。たとえばラベルシールなどをつかい、子どもの気が散らない場所（背中など）に貼る。
★名札があると名前を忘れる心配がなく、新しい人も参加しやすくなる。



10:35 ～（15分）

- 会のスタート
- 挨拶 ●出欠の確認
- 活動内容の説明
- 導入の遊び：例

「はじまるよ」

「エネルギーチェック」（p.42参照）

※「はじまる！」という気持ちの切り替えの時間。

★リーダーが（当番制にするとよい）はじめの挨拶をし、出欠をとる。
今日の遊びの内容と流れを説明。

最初は返事をはずかしがる子どもも、次第に「みんなの中の自分」を感じられるようになる。

10:50 ～（30分）

- 遊びタイム（前半）

▼たとえば…

(1) 本書を参考に遊びを展開。
(2) 外部団体による遊びの展開。
(3) 会場をいくつかの遊びごとにコーナー分けし、好きな遊びに参加する。

年間スケジュールを立ててみましょう

★1日の活動の時間割を考えるのはもちろん、1年を通した計画を立てると、活動の見通しが立ち、張り合いも生まれます！



ひとことmemo 外部団体を呼んだ場合は、休憩時や最後に、質問したり、感想を伝える時間を取り入れましょう。【SCJ】

開始前の準備から終了まで、だいたいのスケジュールを決めておくと、進行がスムーズです。
会場を使用できる時間内に終えられるように、アイデアを出し合いましょう。

11時

11:20 ～（10分）

- **休憩**（水分補給　おやつ　トイレなど）

休憩は前半と後半の遊びの切り替えにもなる。



※忘れがちな水分補給などは時間を決めてとり入れる。

11:30 ～（20分）

- **遊びタイム（後半）**

前半よりも静かに遊べる内容を心がけ、クールダウンに向かう。

11:50 ～（5分）

- **終わりの遊び：例**

「さよならあんころもち」
「くすくすりらっくす」
(p.17 参照)

※活動が長引かないよう、締めの遊び時間は守るようにする。

- **事務連絡**
- **「さようなら」の挨拶**

★次回の活動日時、内容を知らせ、その時点での参加者を把握する。

11:55 ～（5分）

- **全員で片付け**

子どもも楽しく参加できるように、どこに何を片付けたらよいかを絵などで示す工夫を。

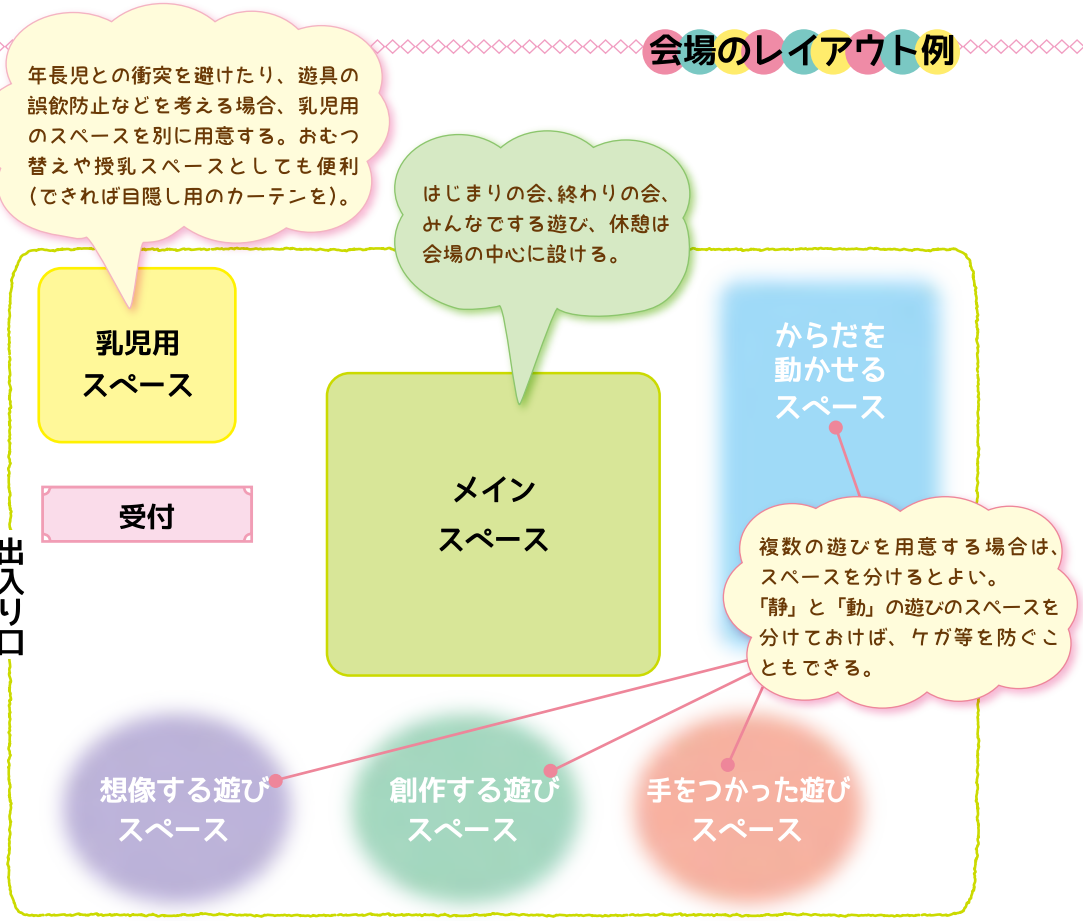
12時

12:00

- **解散**



会場のレイアウト例



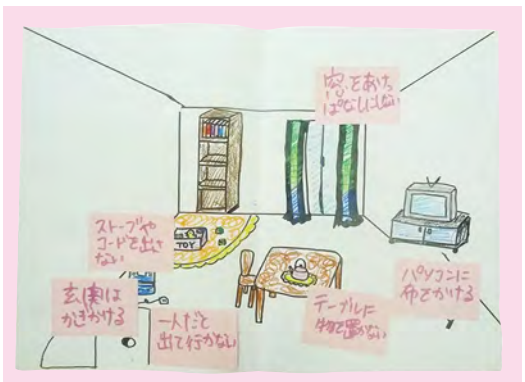
ひとことmemo はじめと終わりの遊びの例「はじまるよ」と「さよならあんころもち」は、動画サイトなどで検索できます。【SCJ】

安全に遊べるように気をつけること

乳幼児期の子どもたちは運動能力が発達し、どんどん行動範囲を広げる探検家。目に入るものすべてが新鮮で、いろいろなものをつかって実験をくり返します。でも、子どもが主体的に思いのままに遊ぶということは、同時に養育者が「ひやっ」としたり「それはだめ！」と注意する場面が増えることでもあります。発達段階を考慮しながら遊び場を点検して、まずは安全確保。子どもがケガなどをせずに、のびのび遊べる環境づくりが何より大切です。

ケガや事故を防ぎ「だめ！」と怒らなくてもすむ工夫

- 掃除機等で、床や子どもの手が届く範囲から、尖ったものや誤飲につながるような小さなものは取り除く。
- 活動でつかわないもの・子どもに触ってほしくないものはすべて片付ける（別の部屋に移動する、大きな布をつかい目隠しするなど）。
- 養育者の目が届かない死角をつくらないよう確認する。
- 出入口は必要な時に開閉するようにし、遊んでいいところといけないところを視覚的にわかりやすくする。
- テーブル等の角にクッションになるものをつけたり、コンセントの差し込み口をテープなどでふさぐ（p.58 参照）。
- ドアに手をはさまないような工夫をする。
- 大きな家具などには転倒防止対策をする。
- トイレ、お風呂などの水回りに子どもだけが行くことのないようにする。
- カーテンを高い位置で括る。
- 口に入れても安心な素材でできたクレヨンや、乳幼児用の安全に配慮したハサミ（紙のみが切れるもの）などを選ぶ。
- コーナーを年齢別、遊びの種類別で分けるなどして、静と動の遊びのスペースを、子どもたちにもわかりやすいように区切り、安全な動線をつくる（p.55 参照）。



部屋の危ないところを養育者のみなさんと一緒に考えました。



子どもにしてもらいたくないことをからだのパーツに沿って考え、そこから遊び場の対策を考えました。

ひとことmemo 自分でできることが増えてくると、子どもは自ら挑戦したがります。その時に安全に遊べる場があれば、子どもも養育者も楽しく、思い切り遊ぶことができます。【SCJ】

遊びの専門家を呼ぶには

Part１～５の遊びは、宮城県内外の遊びの専門家に紹介してもらった遊びです。普段の集まりは仲間同士での活動が基本となりますが、数か月に１度程度でも、外部から専門家を招いてみてはいかがでしょうか。会の雰囲気が変わるだけでなく、様々な視点から学べ、活動の幅が広がっていきます。

遊びの専門家の探し方：市民センターや図書館に子ども向けの団体情報が公開されていることがあるので注意してみましょう。また、社会福祉協議会や NPO センターなどの窓口に問い合わせることで地域で活動している団体を紹介してもらえます。地域で話題の団体や、この本で紹介した５つの分類（p.6 参照）を手掛かりにインターネットなどで検索してみるのもいいですね。

依頼する前に考えておくとよいポイント

調整係を決める

調整係とは、会の窓口となり、呼びたい団体とやりとりをする係。実施日まで、時間や会場、準備物について等々を知らせたり、団体の要望を聞いたりします。
毎回同じ人では大変なので、当番制にするといいかもしれません。



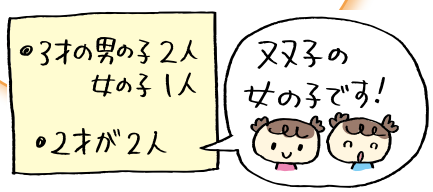
来てもらいたい候補日を決める

団体によってはスケジュールがいっぱい…というところもあるので、調整がスムーズにいくように、複数の候補日を用意しておきましょう。



参加者の情報をとりまとめる

会に合ったプログラムを実施してもらえるように、参加する子どもたちの年齢や人数、特徴などをあらかじめまとめておきましょう。団体側にとっても役立つ情報となります。



お支払いできる金額を考える

団体によって、有償・無償は様々です。お支払いできる金額を事前に検討しておくと、団体側もいろいろな提案をしてくれると思います。
どうしても呼んでみたいけれども「高すぎる！」という場合は、他の会との合同開催を考えるのもいいですね★

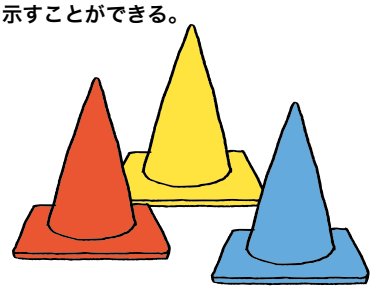
ひとことmemo 時には他の団体と合同開催してみましょう。子ども同士の交流の幅が広がるだけではなく、養育者同士の情報交換の機会ともなって、活動に弾みがつきます。【SCJ】

備品リスト

用意しておくと便利な備品をご紹介します。持ち寄ったり、その都度購入するよりも、みんなで相談し、まとめて購入することをおすすめします。

カラーコーン

外遊びの時に、安全範囲を視覚的に示すことができる。



大型絵本など

家庭ではそろえにくい大型絵本や大型の遊具など、会ならではの備品。

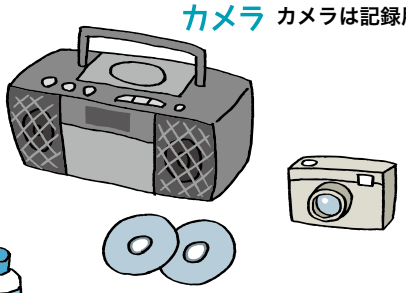


音楽プレーヤー・CD

BGM や歌遊びで使用。

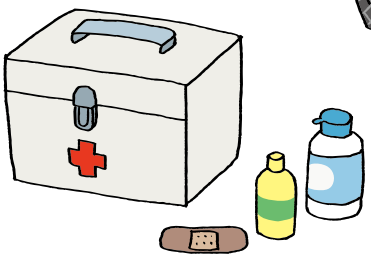
カメラ

カメラは記録用。



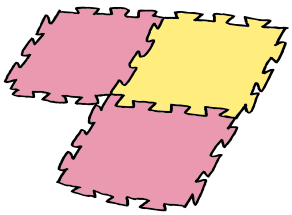
救急セット

もしもの時のために。



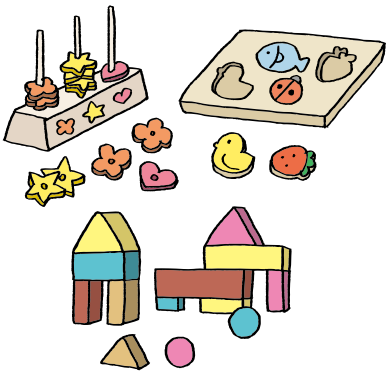
ジョイントマット

転倒時の衝撃をやわらげたり、滑らないようにするだけでなく、視覚的にスペースを区切ることができる。



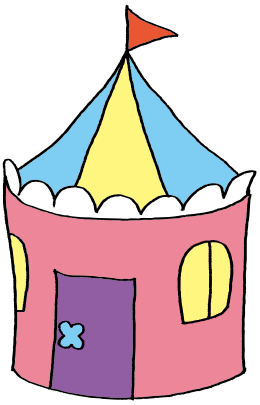
いろいろな遊具

Part4「手をつかった遊び」で紹介した遊具などを参考に、乳児向けと幼児向けをバランスよく用意する。



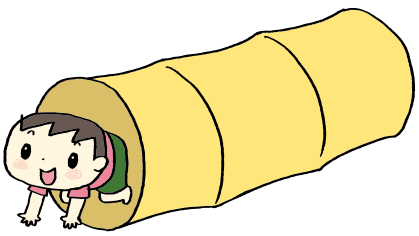
子ども用テント

子どもは隠れられるところが大好き。テントがあると、秘密基地ごっこやおままごとなども楽しめる。



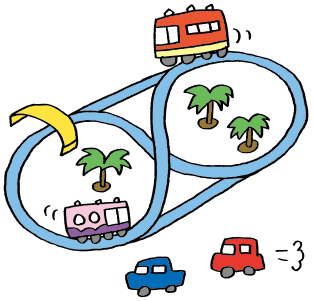
プレイトンネル

姿勢を低くして通り抜けたり、かくれんぼを楽しんだりは、子どもの発達に刺激を与える。



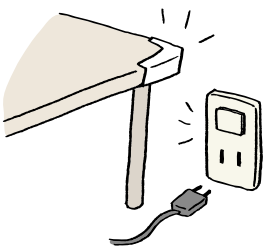
ミニカーや電車のおもちゃ

運転手になりきって車や電車を走らせたり、周囲のものを建物などに見立てて遊んだり、想像力を広げて楽しめる。



安全対策グッズ

家具の角をガードするもの。
コンセントの差し込み口をふさぐもの、扉の指はさみ防止などのグッズ。



ひとこと memo 毎回使用する遊具や安全グッズ、備品がある場合、貸し出しや保管をしてくれる施設もあるので相談してみましょう。(p.39 参照)【SCJ】

登録用紙（コピー可）

全体の人数や子どもの年齢、連絡先の把握をしておくと、準備物の数、活動の連絡などがスムーズです。また、「活動に期待すること」を記入してもらうと、活動内容を考える時の参考になります。
※個人情報ですので、保管には十分気をつけてくださいね！

登　録　用　紙

記入日：　　年　　月　　日

養育者氏名	ふりがな			性別	男　女	続柄	
子ども氏名	ふりがな	生年月日	年　月　日	性別	男　女	続柄	
子ども氏名	ふりがな	生年月日	年　月　日	性別	男　女	続柄	
子ども氏名	ふりがな	生年月日	年　月　日	性別	男　女	続柄	
現住所							
電話番号							
携帯番号							
FAX番号							
メール アドレス							

これまで子育てサークルなどに参加したこと　　ある　　ない

この活動に期待することは？

活動可能な日	曜日	午前	午後	備考：
	月			
	火			
	水			
	木			
	金			
	土			
	日			

活動記録（コピー可）

当日の活動の様子がわかるように参加者数や活動内容、感想などを記録にとっておくと、過去の活動や反省点を振り返ることができます。記録者は当番制にすると、ひとりの負担が少なくなりますね。

活　動　記　録

記録者：

日時	年　月　日　：　～　：			
場所		参加者	再来	子ども：　人（男：　女：　）
				大　人：　人（男：　女：　）
			新規	子ども：　人（男：　女：　）
				大　人：　人（男：　女：　）
活動内容				
良かったこと				
今後気をつけたいこと				
記録者の感想				
備考				

出　欠　表

No.

No.	実施回数	第　回	第　回	第　回	第　回	第　回	第　回	第　回	第　回	第　回	第　回	第　回	第　回
	実施場所												
	実施日	/ (　)	/ (　)	/ (　)	/ (　)	/ (　)	/ (　)	/ (　)	/ (　)	/ (　)	/ (　)	/ (　)	/ (　)
	名前 / 性別												
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													

出欠表（コピー可）

それぞれの活動の出欠を確認します。一覧になっていることで、その日の顔ぶれ（参加者数）や最近来ていない人がわかりますね。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの“地域の遊び場づくり”事業

2011 年の東日本大震災の影響により、公園は津波により浸水したり、仮設住宅団地が建設されるなど、子どもたちの遊び場や居場所は減少しました。宮城県内の仮設住宅団地内に子どもの遊び場が設置されているのは全体の 20%程度、敷地内に設置されている集会所・談話室（以下：集会所）を子どもの遊び場として活用している仮設住宅団地は全体の約 4% でした。※ さらに仮設住宅団地敷地内の屋外スペースは駐車場としてつかわれ、子どもたちが外遊びをするには危険な状況でした。このように、とりわけ幼稚園や保育所に通わない子どもの屋内・屋外の遊び場がなく、また養育者の方々が交流する機会も少ないのが現状でした。

心身共に著しく発達する乳幼児期において、「遊び」は子どもにとって身体的な発達だけではなく、知的、情緒的、社会的な発達を促すと考えられ、非常に重要です。また、慣れない新しい環境で、子育てに関する情報交換や同じ年頃の子育てに励む養育者同士の交流が少ないと、家にこもりがちとなり、地域から孤立してしまいます。

こうした背景から、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは 2012 年秋より“地域の遊び場づくり”事業を宮城県石巻市にて開始し、家庭で子育てをしている養育者が、仮設住宅団地の集会所を利用して集まり、子ども同士の遊びを楽しんだり、養育者同士で気軽に情報交換をしたり、交流する機会を提供しました。

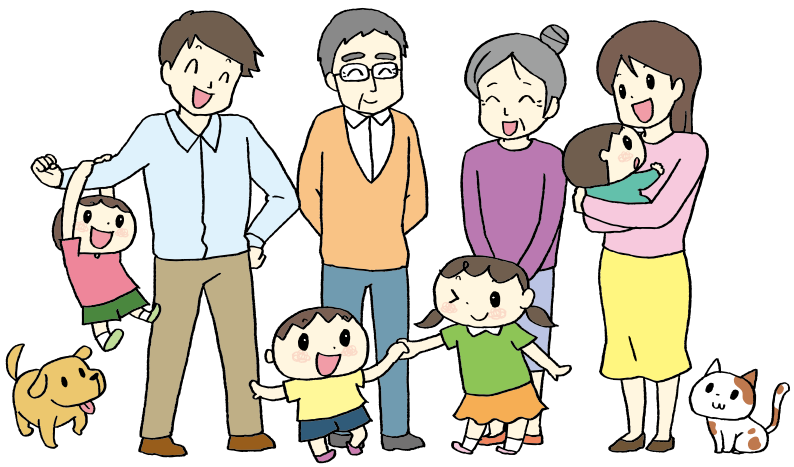
そして、事業を進めていく中で学んだことや得られた経験、参加いただいた養育者の方々やご協力いただいた団体の方々の声を、この一冊にまとめました。今後は、この「あそびのレシピ」を役立てていただき、子どもとの遊びを考えるヒントを得たり、地域で子育てグループを立ち上げる際のモデルとして活用していただければ幸いです。

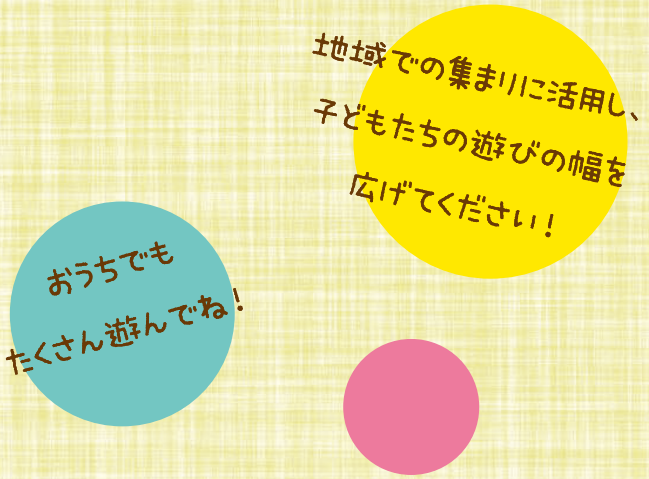
※ 2012 年 3 月の宮城県による調査報告　調査期間：2011 年 10 月 31 日～ 2012 年 1 月 13 日　調査対象：宮城県内 15 市町の仮設団地（全 414 団地のうち、すでに入居している 408 団地へ調査票を配布。有効回答 406 団地　回答率 99.51%）

最後になりましたが、私たちの“地域の遊び場づくり”事業に参加いただいた宮城県石巻市の養育者の方々や子どものみなさん、楽しい遊びの提供や活動にご協力いただいたNPO・企業のみなさんに、この場を借りて心より感謝申し上げます。

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、2011年3月の東日本大震災が発生した直後から、東北で緊急・復興支援の活動をしています。これまでに、日本だけでなく世界中からいただいたご支援を、およそ30の市町村で、10万人以上の子どもとその家族のみなさんに、お届けしました。

子どもの遊びは、すべての年齢の子どもに与えられた権利のひとつであり、子どもの権利条約第31条で規定されています。私たちは、子どもに与えられたこの権利を大切にし、東日本大震災後の復興支援の中でも尊重していきたいと考えています。





Save the Children
JAPAN

セーブ・ザ・チルドレンは、国連に公認された子ども支援の国際NGOです。子どもたちの「生きる」、「育つ」、「守られる」、「参加する」という子どもの権利を実現するために、日本や世界中の子どもたちのために、子どもたちとともに活動しています。

発行：2013年12月
著作：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
本部／〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル4階
Tel：03-6859-6869　　http://www.savechildren.or.jp
東日本大震災復興支援事業　地域の遊び場づくり

※本書を無断で複写（コピー）、転載することは、著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。
日本音楽著作権協会（出）許諾第1312934-301号